

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY
ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '22

Vol.29

Graduation design presenter list '22

Rei Ueda	Ryohei Musha	Rina Maruyama
Eimi Suzuki	Ruriko Ikeno	Nanako Mitsumoto
Shuta Tanaka	Yusuke Ose	Haru Murayama
Kizashi Chikamura	Kisato Shionoya	Chiho Watanabe
Aoi Yuda	Haruki Nakatsuka	

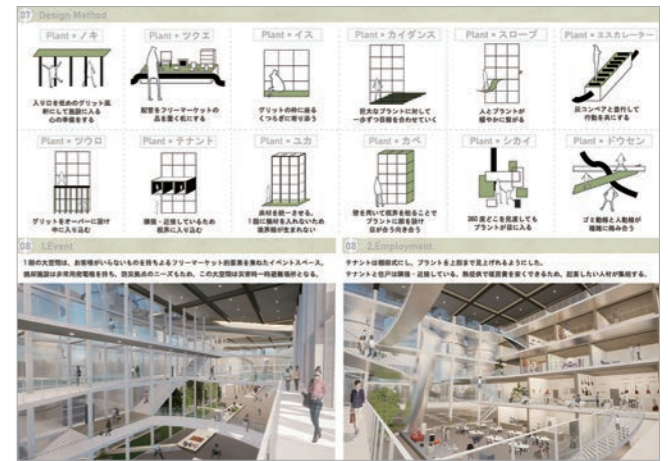
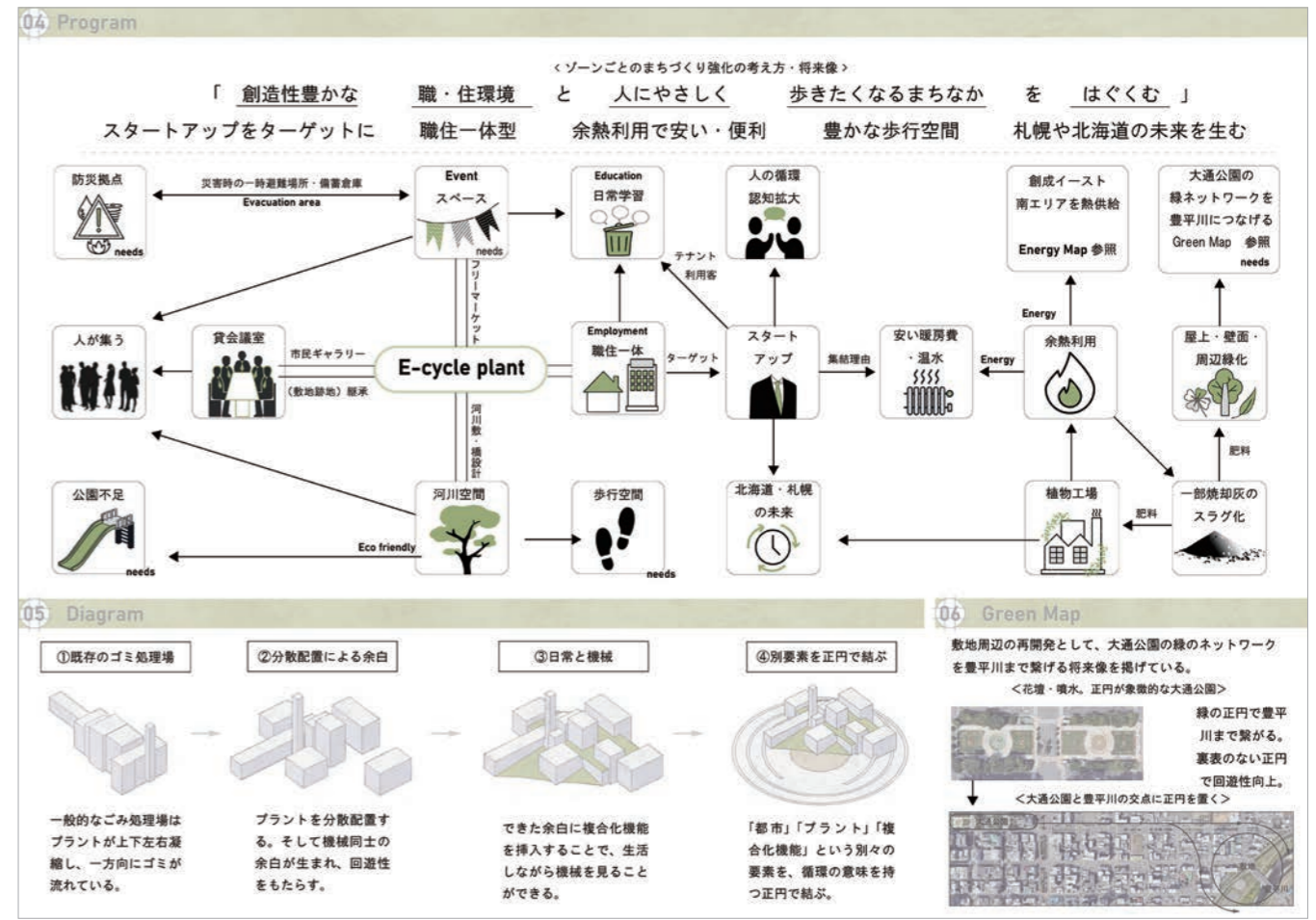
CONTENTS

2022年度「北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集」 HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS'22

subject	page	student no.	name	title			
卒業設計	4年生	02	4319236	渡邊智帆 Chiho Watanabe	E-cycle plant 都市に馴染む複合型クリーンセンター <2022年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品> <近代建築別冊「卒業制作2023」掲載作品> <2022年度日本建築学会北海道支部賞 銅賞受賞作品> 御山の灯籠 ～彼方者の標で彼等を想う～ <2022年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品> <2023年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品> <JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2023 金賞受賞作品> 花園銭湯基地 ～湯、まち、人の再沸騰で冷えきった商店街を温める～ <2022年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品> 狸小路商店街の二層化を繋ぐ音楽を交えたコミュニケーションスペース 最掘る広場 ～屋内遊戯場で広がる地域での子育てを目指して～ 「ひびきの丘～Hokkaidoホロトロピックセンター～」の基本計画・基本設計(案)の策定 ー市立小中学校から統合医療研究所への用途変更ー Trace Back ー酪農における生産・加工・販売の包括ー 無機物の森を渡る ー衰退した廃工場から達着する陳腐な日常への向き- 黎明 ～次世代漁業を支える漁師と技術の創出～ 建築と空間性の強い場所 モリグラシ ー森林との共存共栄ー 本を読むということ ～モノが紡ぐ時間～ Co+housing ー「交流」と「協力」から生み出す新たな更生生活ー これまでとこれから ～操車場の記録と追記する雪～		
		08	4319205	大畝悠介 Yusuke Ose			
		13	4319118	鈴木瑛美 Eimi Suzuki			
		16	4319105	上田 伶 Rei Ueda			
		17	4319121	田中秀汰 Shuta Tanaka			
		18	4319122	近村 萌 Kizashi Chikamura			
		19	4319136	湯田 葵 Aoi Yuda			
		20	4318134	武者凌平 Ryohei Musha			
		21	4319202	池野瑠里子 Ruriko Ikeno			
		22	4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya			
		23	4319219	中塚遥己 Haruki Nakatsuka			
		24	4319230	丸山莉奈 Rina Maruyama			
		25	4319232	三本菜那子 Nanako Mitsumoto			
		26	4319233	村山はる Haru Murayama			
		27	2022年度卒業設計提出者リスト				
		造形演習 I	1年生1学期	28	4322137	三浦葵里 Kiri Miura	問題用紙をモチーフとした平面構成
				4322117	小林もえ Moe Kobayashi	問題用紙をモチーフとした平面構成	
				4322131	早田健将 Kensho Hayata	問題用紙をモチーフとした平面構成	
				4322106	大井里桜 Rio Oi	問題用紙をモチーフとした平面構成	
				29	4322144	吉田璃子 Riko Yoshida	季節をテーマとした自画像
				4322113	木田健介 Kensuke Kida	季節をテーマとした自画像	
				4322111	小野鉄生 Tetsusho Ono	季節をテーマとした自画像	
				4322146	渡辺咲奈 Sana Watanabe	光をテーマとした平面構成	
				4322209	入井菜瑠奈 Nazuna Irii	光をテーマとした平面構成	
				4322228	中島羽琉 Haru Nakajima	光をテーマとした平面構成	
				30	4322132	原田依吹 Ibuki Harada	コラージュを主体とした平面構成
				4322229	永平楓果 Fuka Nagahira	コラージュを主体とした平面構成	
4322221	齋木涼太 Ryota Saiki			コラージュを主体とした平面構成			
4322128	中村海斗 Kaito Nakamura			コラージュを主体とした平面構成			
31	4322116			行部葉菜 Hana Gyobu	身の回りのモノをモチーフとした細密画		
4322123	菅田修翔 Shuto Sugata	身の回りのモノをモチーフとした細密画					
4322101	赤塚尚真 Shoma Akatsuka	身の回りのモノをモチーフとした細密画					
4322241	門馬日和 Hiyori Monma	建築と私をテーマとした立体構成					
4322238	益田紀乃 Kotonon Masuda	建築と私をテーマとした立体構成					
4322118	近藤蒼真 Soma Kondo	建築と私をテーマとした立体構成					
空間デザイン演習基礎	2年生1学期	32	4321101	有村萌花 Moka Arimura	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度		
		4321233	村中啓剛 Keigo Muranaka	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		4321103	伊藤健夫 Keno Ito	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		4321112	佐藤智哉 Tomoya Sato	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		4321114	社内瑞希 Mizuki Shanai	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		4321211	佐藤折音 Takuto Sato	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		4321231	真鍋孝輔 Kosuke Manabe	個人課題／「ツールのデザインと制作」／発想と寸法と強度			
		33	4321101	有村萌花 Moka Arimura	最終課題／「待つ+」／シャトルバスバス停デザイン		
		4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	最終課題／「待つ+」／シャトルバスバス停デザイン			
		4321235	山本大夢 Hiromu Yamamoto	最終課題／「待つ+」／シャトルバスバス停デザイン			
		4321112	佐藤智哉 Tomoya Sato	最終課題／「待つ+」／シャトルバスバス停デザイン			

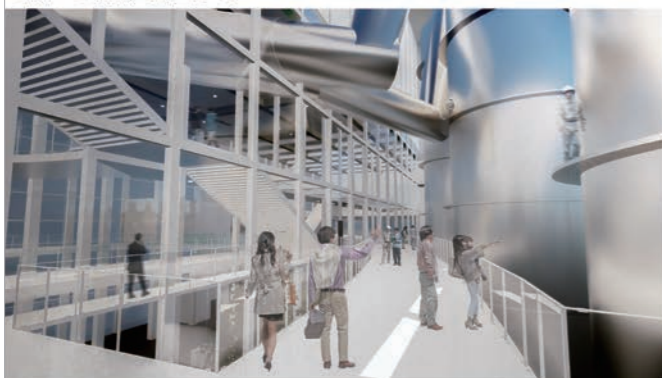
subject	page	student no.	name	title	
空間デザイン演習 I	2年生2学期	34	4321126	七尾美奈 Mina Nanao	カフェ・テラス
		35	4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	カフェ・テラス
		36	4321101	有村萌花 Moka Arimura	小課題「住宅をさがそう」
		4321223	西垣優衣 Yui Nishigaki	小課題「住宅をさがそう」	
		37	4321101	有村萌花 Moka Arimura	住宅
38	4321223	西垣優衣 Yui Nishigaki	住宅		
空間デザイン演習 II	3年生1学期	39	4320136	福田涼太 Ryota Fukuda	デザイン・スクール
		40	4320246	渡辺倫大 Tomota Watanabe	デザイン・スクール
		41	4320136	福田涼太 Ryota Fukuda	小課題「建築作品をさがそう」
		4320235	源 竜河 Ryuga Minamoto	小課題「建築作品をさがそう」	
		42	4320126	高橋力生 Riki Takahashi	テナント・ビル
43	4320246	渡辺倫大 Tomota Watanabe	テナント・ビル		
建築デザイン論	3年生1学期	44	4320221	芝田碧敬 Aoto Shibata	「光」を浴びる
		4320216	齋藤未波 Minami Saito	光のトンネル	
		45	4320214	木村凌雅 Ryoga Kimura	光の道
4320242	山下 建 Takeru Yamashita	草原のDENDEN			
空間デザイン演習 III	3年生2学期	46	4320126	高橋力生 Riki Takahashi	アート+建築=X
		47	4320204	安藤 翼 Tsubasa Ando	アート+建築=X
		48	4320221	芝田碧敬 Aoto Shibata	電車通りの「みんなの家」
		49	4320246	渡辺倫大 Tomota Watanabe	電車通りの「みんなの家」
空間デザイン演習 IV	4年生1学期	50	4319205	大畝悠介 Yusuke Ose	大通公園前の図書交流館
		51	4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	大通公園前の図書交流館
		52	4319136	湯田 葵 Aoi Yuda	光と邂逅する建築
		53	4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	光と邂逅する建築
第14回ガクナイコンペ2022	全学年	54	4322229	永平楓果 Fuka Nagahira	1等賞 1年生
		4322144	吉田璃子 Riko Yoshida	2等賞 1年生	
		4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	3等賞 4年生	
		4522107	大岩奏絵 Kanae Oiwa	審査委員賞 1年生	
		4321101	有村萌花 Moka Arimura	審査委員賞 2年生	
		4319205	大畝悠介 Yusuke Ose	審査委員賞 4年生	
		4319233	村山はる Haru Murayama	審査委員賞 4年生	
2022年度コンペ入賞作品		56	4318134	武者凌平 Ryohei Musha	第47回「北の住まい住宅設計コンペ」(共同作品) 最優秀賞 4年生
		4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	4年生	
		57	4319212	塩野谷基悟 Kisato Shionoya	第47回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞 4年生
		56	4320204	安藤 翼 Tsubasa Ando	「北海道建築新人戦 2022」優秀賞 3年生
		56	4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	「北海道建築新人戦 2022」総合資格賞 2年生
57	4321222	中村 龍 Ryu Nakamura	「木の家設計グランプリ2022」事前審査通過作品 2年生		
2022年度学外活動	title 地域の財産としての空き家活用 沼田町セルフリノベーション/移住者・移住希望者・町民らがつながる交流ハウス	58	4319112	今 高志 Takashi Kon	4320205 井上洗平 Kohei Inoue
		4319114	佐々木彩乃 Ayano Sasaki	4320210 鎌田玲花 Reika Kamada	
		4319116	佐藤洸介 Kosuke Sato	4320216 齋藤未波 Minami Saito	
		4319133	水野雄登 Yuto Mizuno	4320222 砂子真星 Maho Sunago	
		4319208	小林勇策 Yusaku Kobayashi	4320245 吉泉颯人 Hayato Yoshiizumi	
		4319226	紅谷 優 Yu Beniya	4320138 前田美咲 Misaki Maeda	
		4319234	義川巧己 Takumi Yoshikawa	4321116 菅澤 翠 Midori Sugasawa	
		4319105	上田 伶 Rei Ueda	4321129 堀 佑実 Yumi Hori	
		4320117	古賀水萌 Minamo Koga	4321223 西垣優衣 Yui Nishigaki	
		60	2022年度科目担当教員リスト		

2022年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品
近代建築別冊「卒業制作2023」掲載作品
2022年度日本建築学会北海道支部賞 銅賞受賞作品



08 3,Plant

階段やスロープなどの人動線と、配管を始めとしたゴミ動線が絡み合う。階段・スロープを始めとした人動線により、建物内・プラント内を一階から屋上まで自由に行き来できるため、様々な角度からプラントと接することで身体的に距離が近づく。



08 4,Education

ゴミが搬入される様子から、煙・灰となるまの一連の流れを施設を利用しながら見ることができ、自然と知識が身に付く。外にいても中にいてもプラントの箱が必ず1つは見える。入り口を複数設けることで人が施設に入りやすくした。

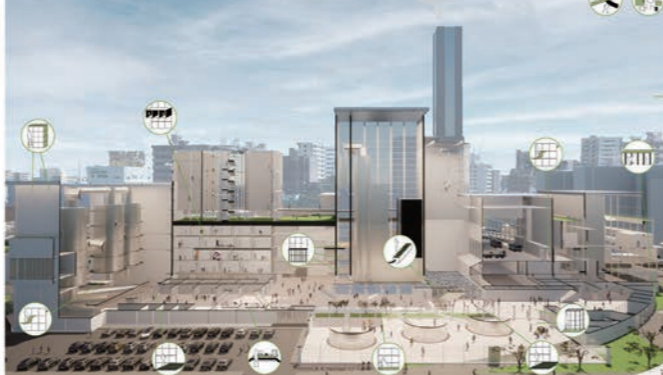


08 5,Eat

テナント・住戸の余熱利用だけでなく、北海道、食の未来のカタチである植物工場の管理にも利用される。食材はテナントで調理される他、直売所でも販売されます。防災時には避難者の食糧となる。

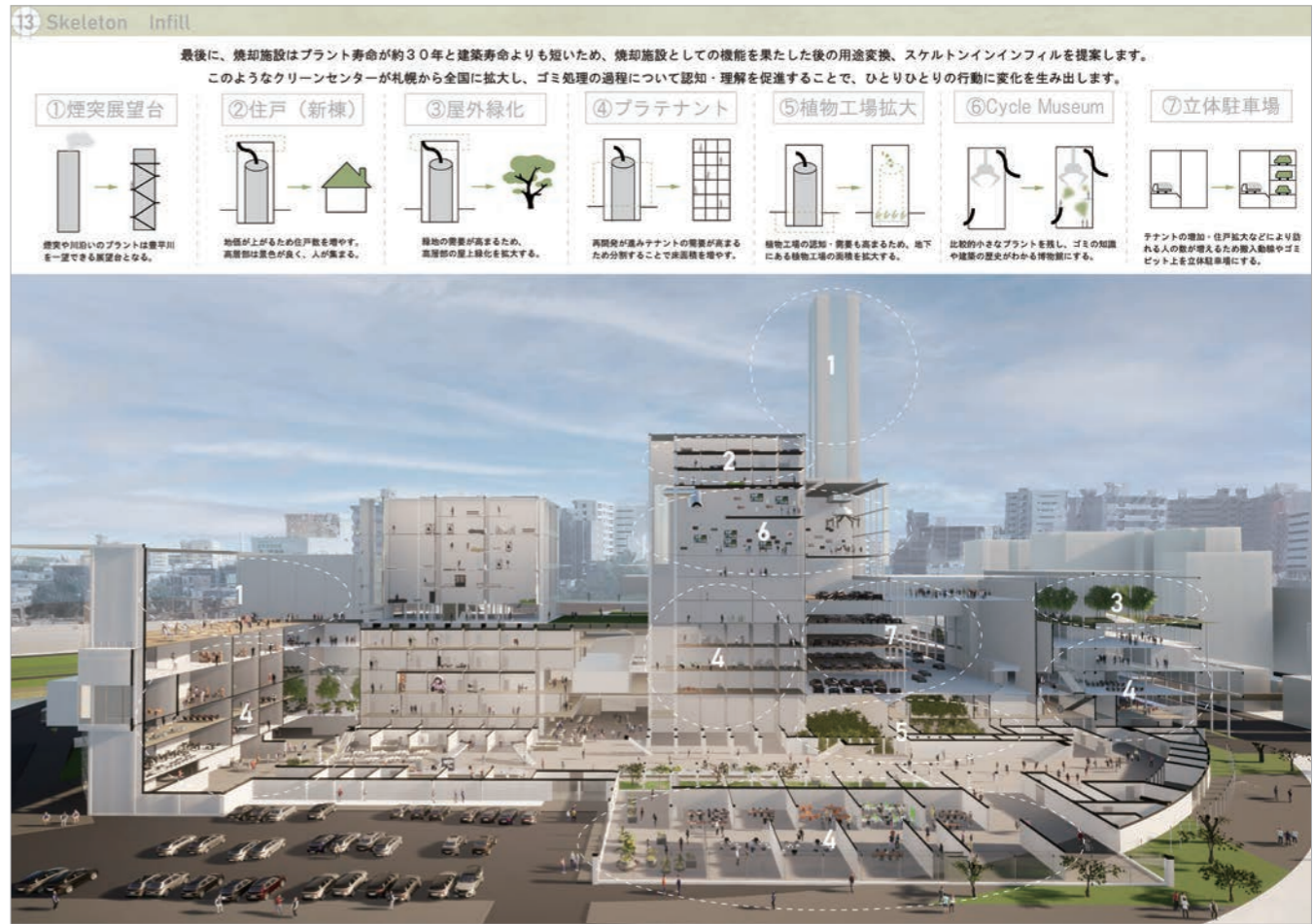


09 Cross Section



10 1F Plan





2022年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品
2023年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品
JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2023 金賞受賞作品

御山の灯籠 「彼方者の標で彼等を想う」

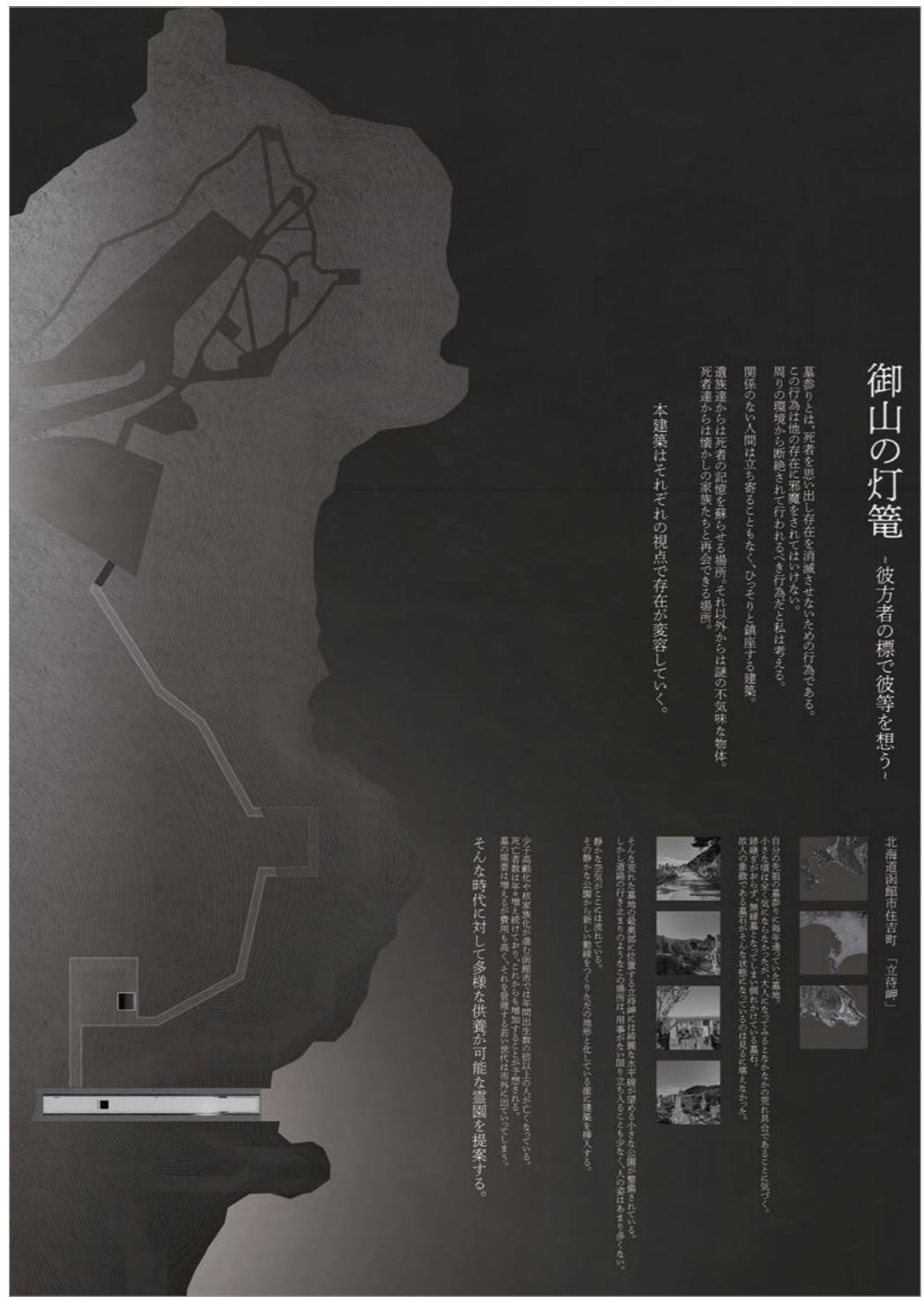
墓参りとは、死者を思い出し存在を消滅させないための行為である。この行為は他の存在に形骸をさせない。周りの環境から断絶されて行われ、行き先として私は考える。関係のない人間は立ち寄ることもなく、ひっそりと鎮座する建築。遺族からは死者の記憶を蘇らせる場所、それ以外からは謎の不気味な物体。死者達からは懐かしき家族たちと再会できる場所。

本建築はそれぞれの視点で存在が変容していく。

北海道函館市住吉町「立待岬」

自分の死を墓参りし悔やんでいなくて、小さくもなにかに「なにか」となにかの光を照らすこと。死を悔やんでいなくて、小さくもなにかに「なにか」となにかの光を照らすこと。死を悔やんでいなくて、小さくもなにかに「なにか」となにかの光を照らすこと。

そんな時代に対して多様な供養が可能な空間を提案する。




8月13日、12時30分。現世から離れ、大切な人に会いに行く。



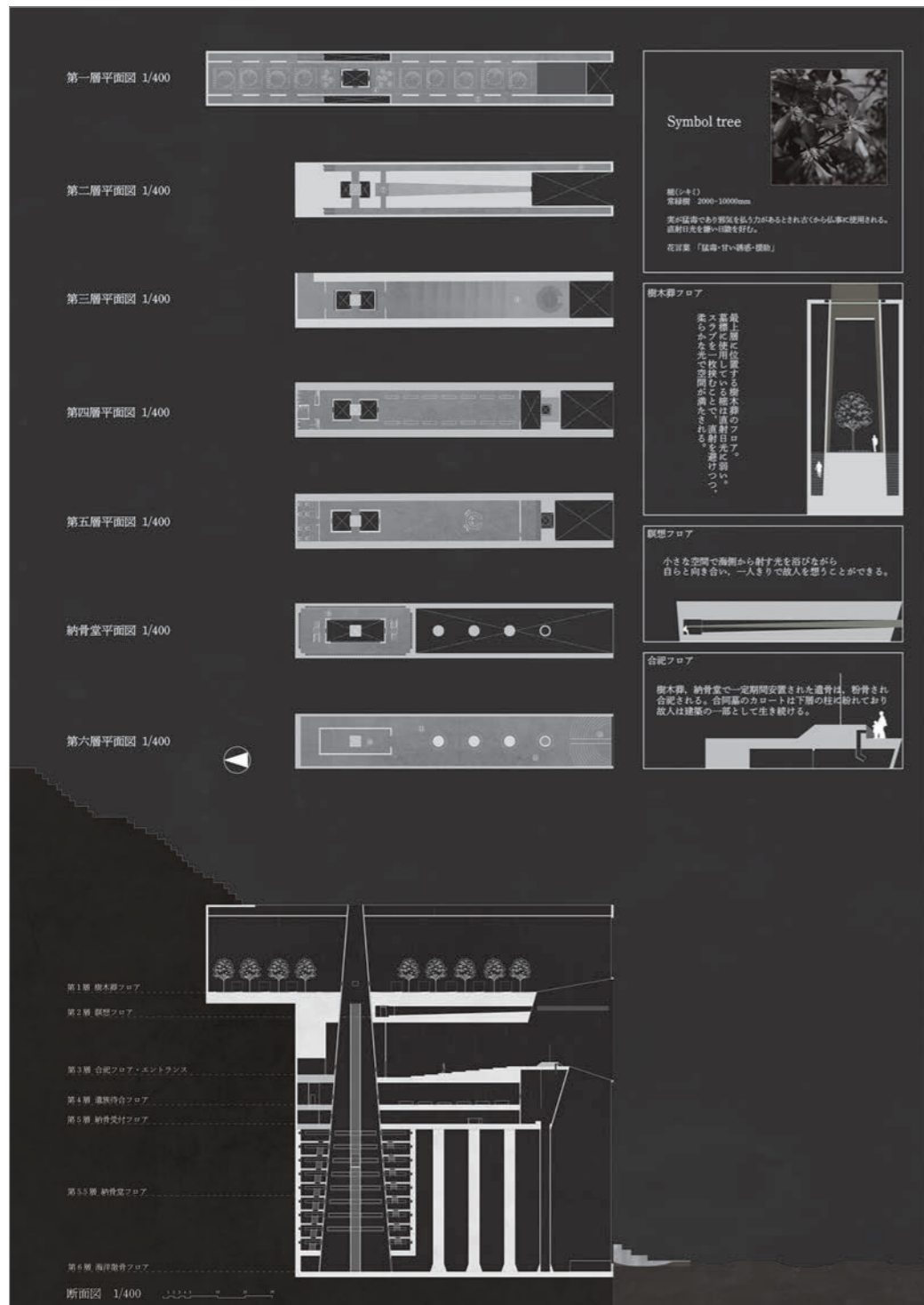
光の照り範囲断面図 1/400

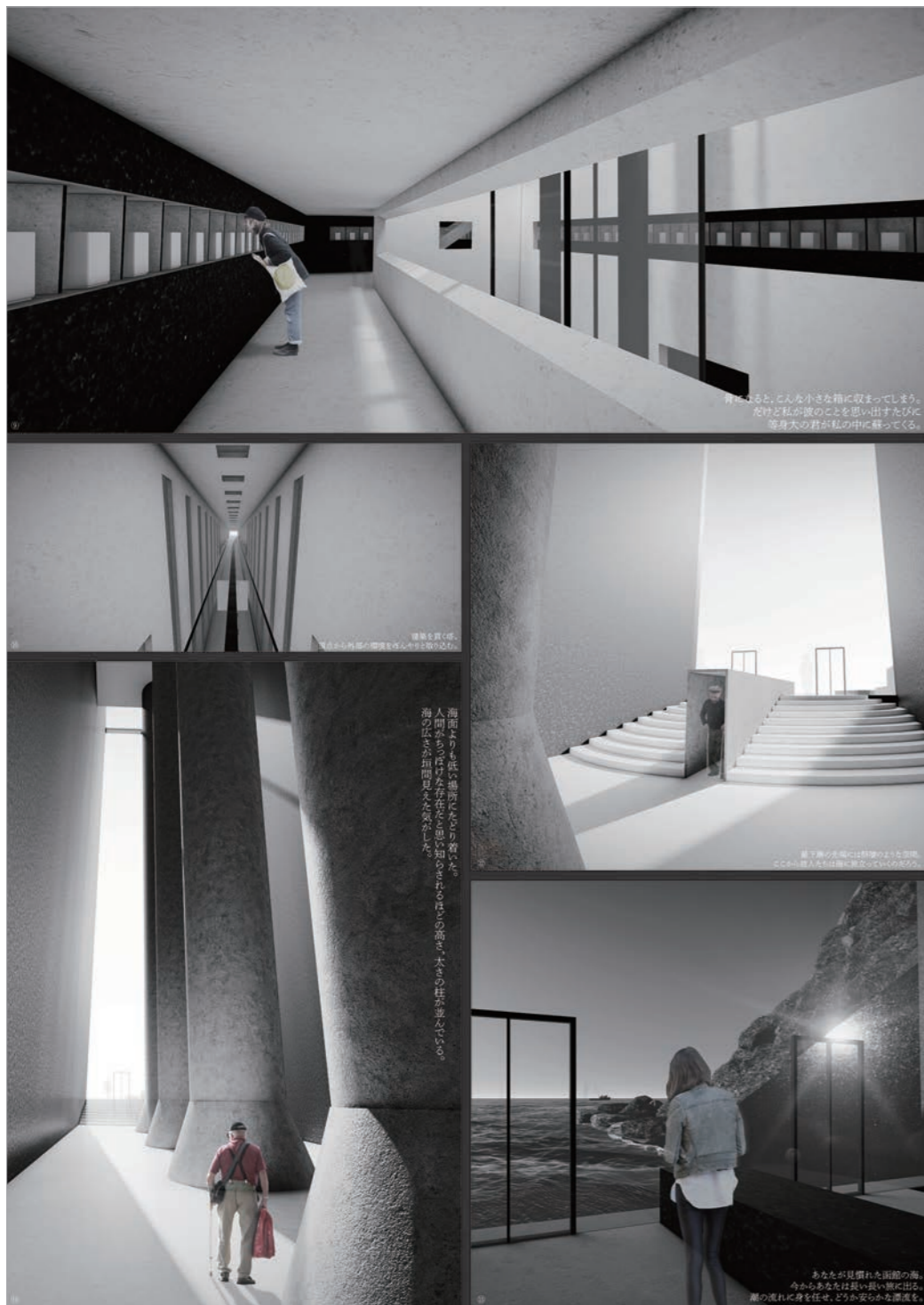
8月13日、正午過ぎ。この空間が本人と目撃者も対象には、日光が降り注ぐ。



海中を遊んでいたはずが、気づくと外の光が射す。

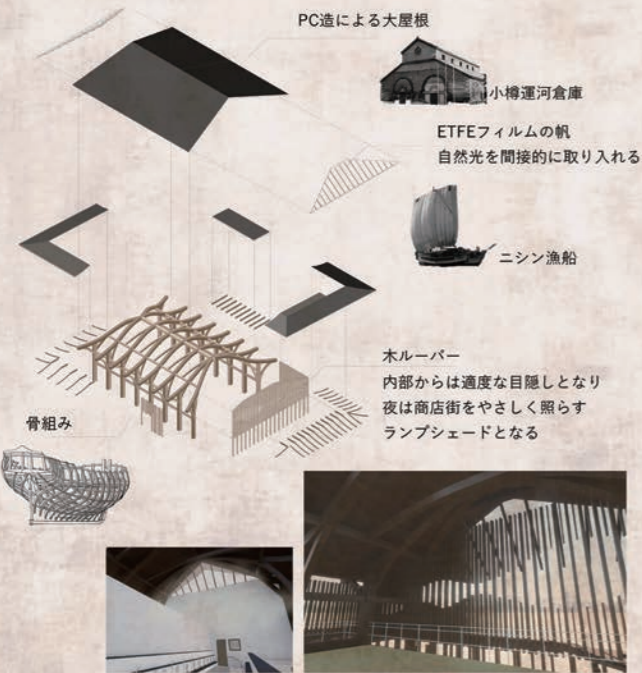
狭い通路を抜け先には、黒い影に光が漏れ込んでいた。あいつは、もう近くまで来ているのだろうか。





・浴場の構成

暮らしと共存する浴場は新たな商店街のシンボルとなるよう小樽繁栄の骨格を作ったニシン漁船と倉庫をイメージし、大きな帆と骨組みをモチーフにした屋根部分が浴場内を温かく包み、大屋根を支える

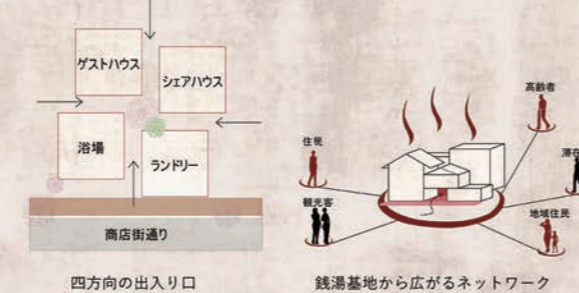


・配置計画

四方向から出入りできるようにし、路地的な入口から内部にも桜の木を植えることで周辺環境とのつながりを持たせた。路地の多い商店街の風景になじむよう閉じつつも開いている構成とした

軒下を通して出入りすることで外部との領域が生まれ、通りから奥に進み階を上がるとプライベート性が高くなり、住民と来訪者の距離を適度に保っている

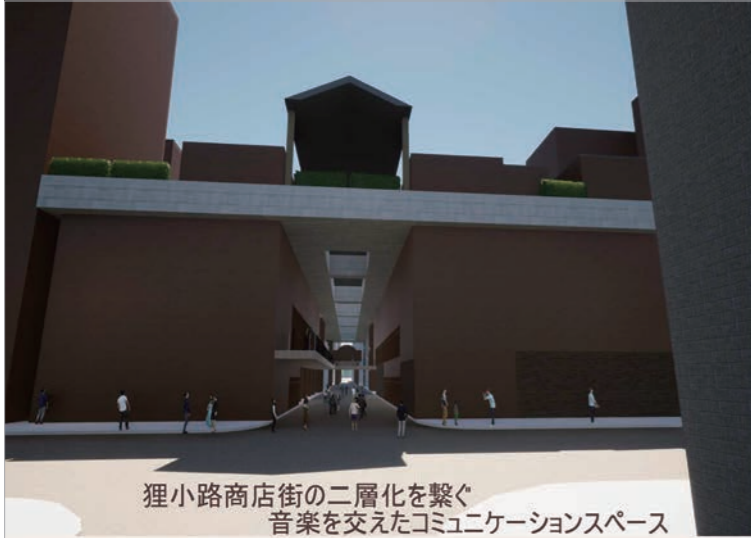
浴場と隣にランドリーカフェがあり、住民が経営し、中庭のデッキや書斎を地域と共有することで、自然な交流が生まれる



一階平面図

二階平面図






**狸小路商店街の二層化を繋ぐ
音楽を交えたコミュニケーションスペース**

敷地：狸小路7丁目
北海道で最古の商店街の一つであり、2023年現在で150年目を迎える。規模も最大級で、7ブロック最延長約900m、店舗数約200軒を持つ商店街。現在の狸小路のアーケードは2代目で、国道部分を除き、交差する路上をも覆うロングアーケード。

人間とは
本質的に社会的な生き物であり、この現代社会において、基本的に人とコミュニケーションをとらずに生きていくことはとても難しい。どのような生活を送っていても、何らかの形で人と繋がって信頼関係を築き、協力し合う必要がある。

マズローの欲求5段階説



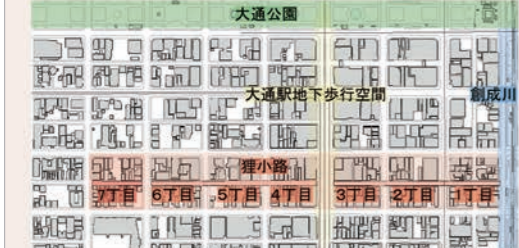
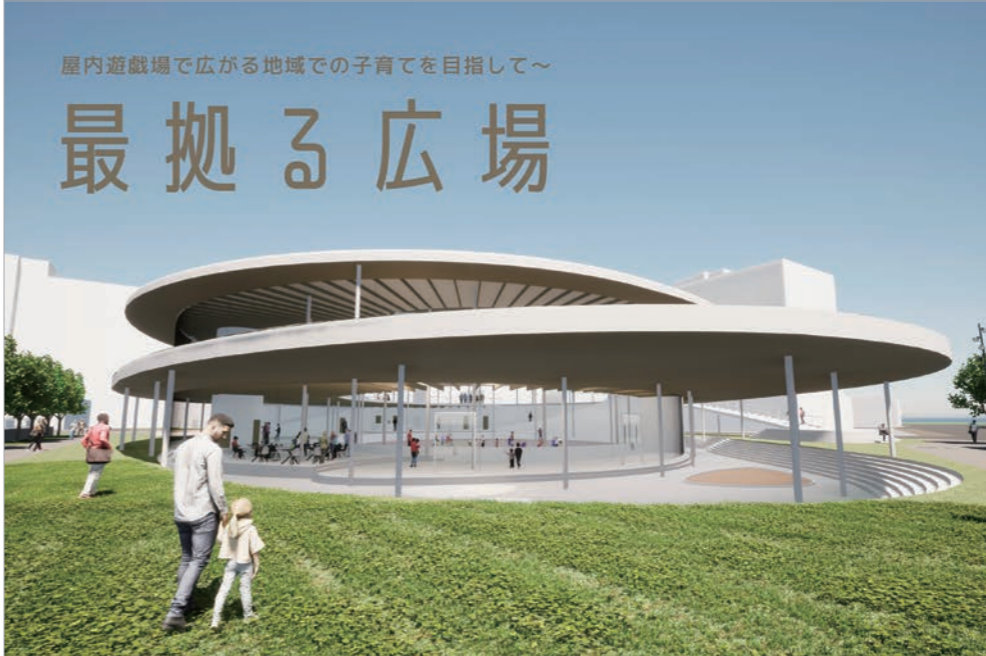
人間には、①～⑤まで5段階の欲求があり、低い段階の欲求が満たされると段々高い欲求も現れてくるというもの。
①生理的欲求
②安全欲求
③社会的欲求
④承認欲求
⑤自己実現欲求
これらが満たされないと、孤独感や不安を感じやすくなり、鬱になるケースもある。

音楽とは
音楽とは演者と観客、演者同士、観客同士で言語意外にも拍手、アイコンタクト、ブレスなど、様々なコミュニケーションが発生する行為

計画の進め方
①地上12m以上に人工地盤を設置
⇒7丁目街区のうち、高さ12m未満の建物の上も設置場所
②7丁目街区のうち、西側を主な敷地とし、新たな建物を設ける
⇒狸小路最後の門のようなイメージ

Points !



- 人工地盤上に店舗を設ける
⇒新たな商業、コミュニケーションエリア
- 人工地盤にはトップライトを設ける
- 地上と人工地盤上はEVや直通縦動線の他、新設する建物内外をスムーズに移動

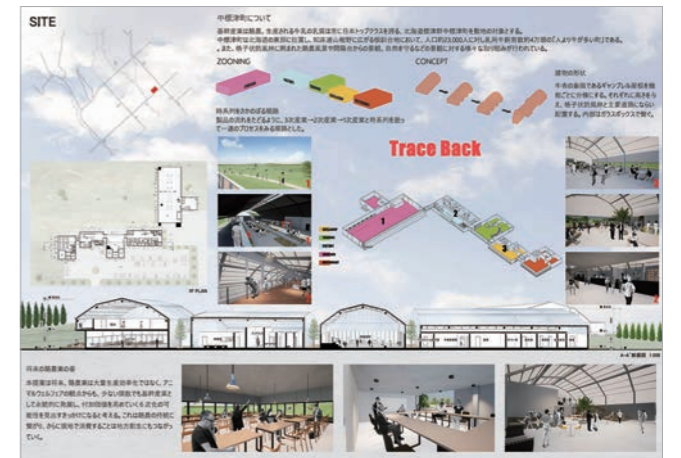



**屋内遊戯場で広がる地域での子育てを目指して～
最拠る広場**

PROJECT
身近な公園や道端などの戸外で遊ぶ子どもの姿は減り、地域の中でお年寄りに見守られ遊ぶことや、子どもの遊びを介した親同士のコミュニケーション等が成り立ちづらくなっている。本設計では、積雪寒冷地である北海道札幌市南区澄川駅の後背住宅地に位置する澄川団地の7～9号棟跡地を対象として、全天候型屋内遊戯場を核とした地域住民と子どもの居場所を設計することで、地域の見守りや子育て環境の充実を目指した。

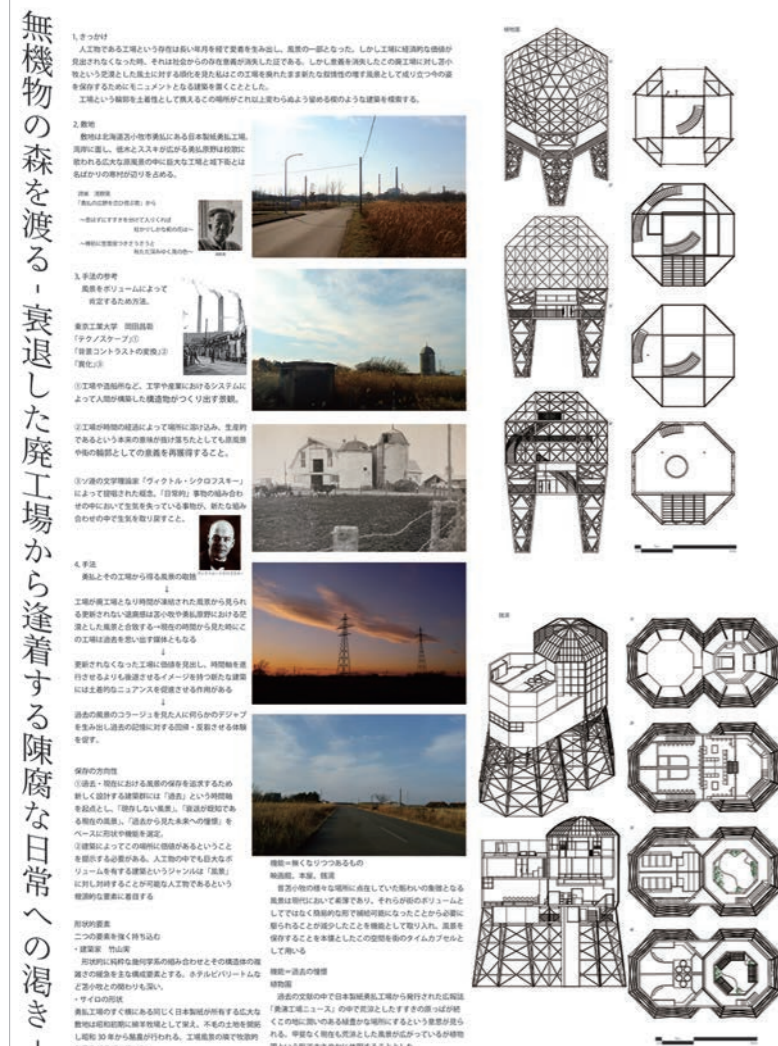
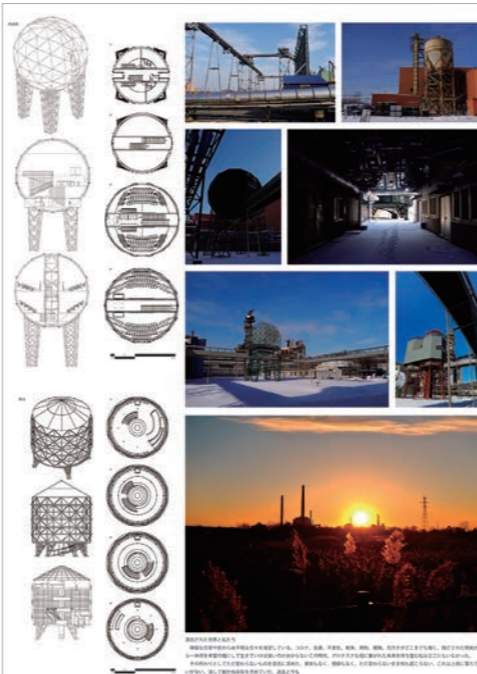
PROGRAM

無機物の森を渡る、衰退した廃工場から達着する陳腐な日常への渴き

- きっかけ**
人工的で単調な工場という空間は古い都市を建て替える機会を多くもたらした。しかし、工場に起因的な環境が後世になくならない。それは社会からの存在意義が消失した証である。しかし、産業が衰退したこの工場に新しい目的と用途という変化を求め、この工場を新たな多様な用途の持つ風景として作り出すことを目指す。工場という空間を建築として残すことの意味がこれ以上進むと、都市の風景が壊れる。工場を建築として残すことの意味がこれ以上進むと、都市の風景が壊れる。
- 課題**
この工場は、工場という空間を建築として残すことの意味がこれ以上進むと、都市の風景が壊れる。工場を建築として残すことの意味がこれ以上進むと、都市の風景が壊れる。
- 多様な用途**
工場をジョイントによって複合する。工場をジョイントによって複合する。工場をジョイントによって複合する。
- 多様**
衰退した工場から達着する陳腐な日常。衰退した工場から達着する陳腐な日常。衰退した工場から達着する陳腐な日常。

黎明 次世代漁業を支える漁師と技術の創出

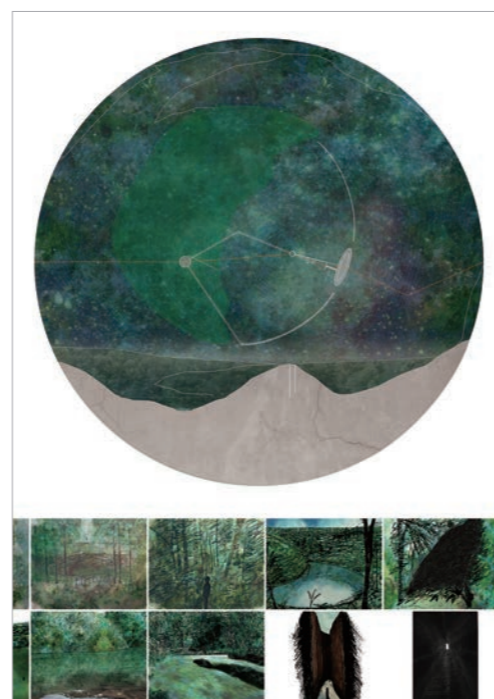
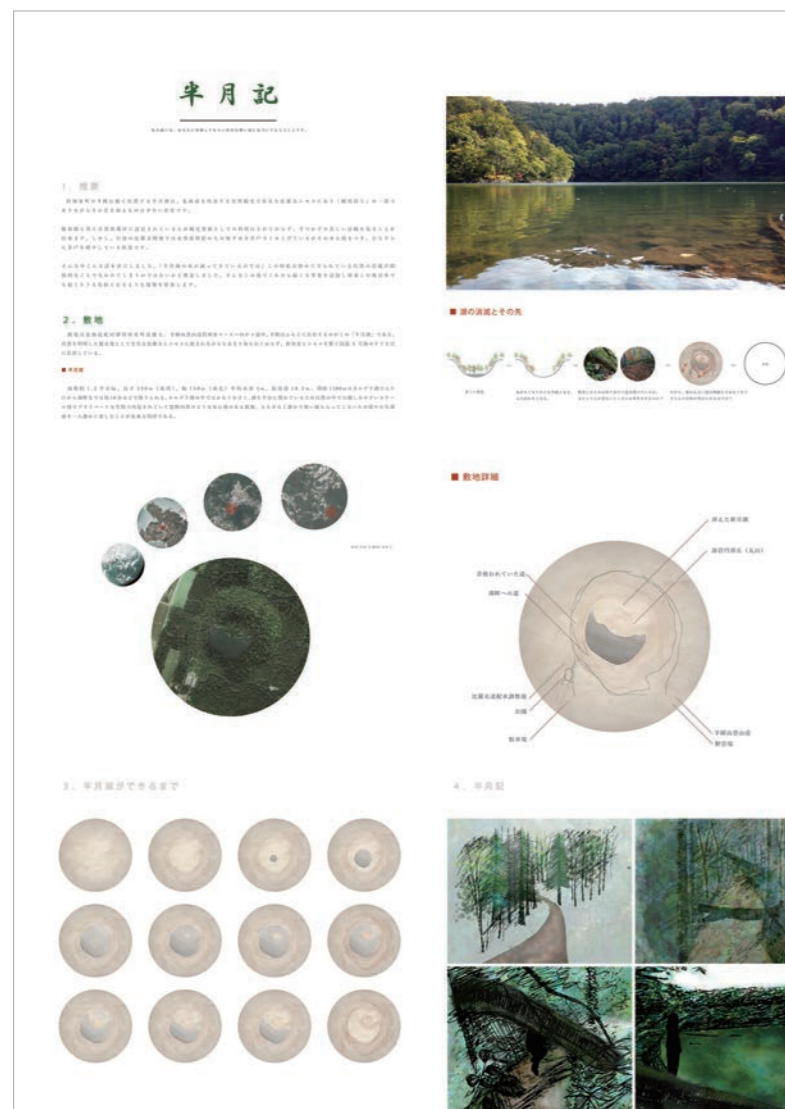
漁業生産を維持し、持続的に発展させていくためには、漁業就業者の確保が必要である。意欲ある若者に漁業への門を広く開き、次世代漁業の基盤を築く場所を提案する。

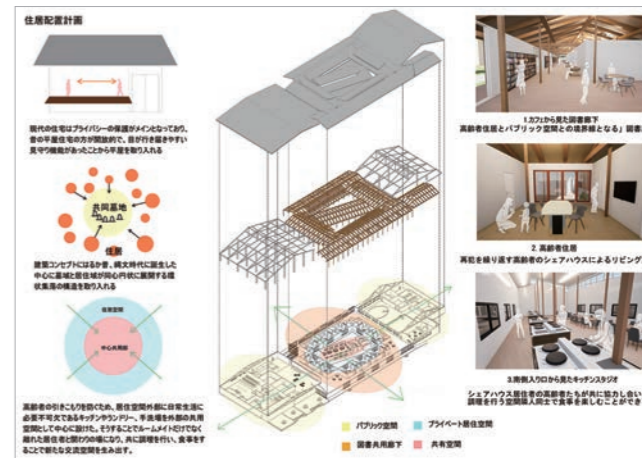
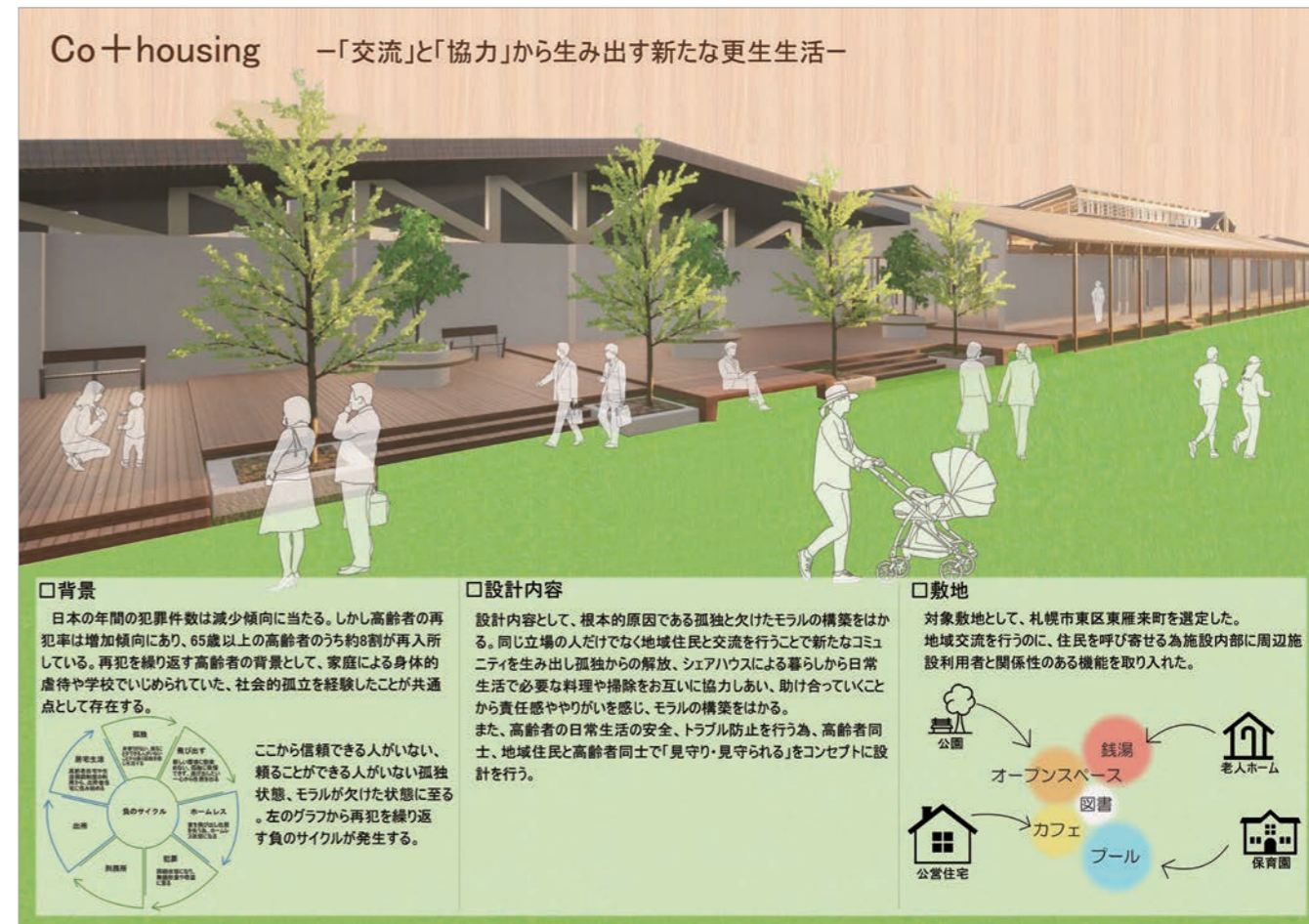
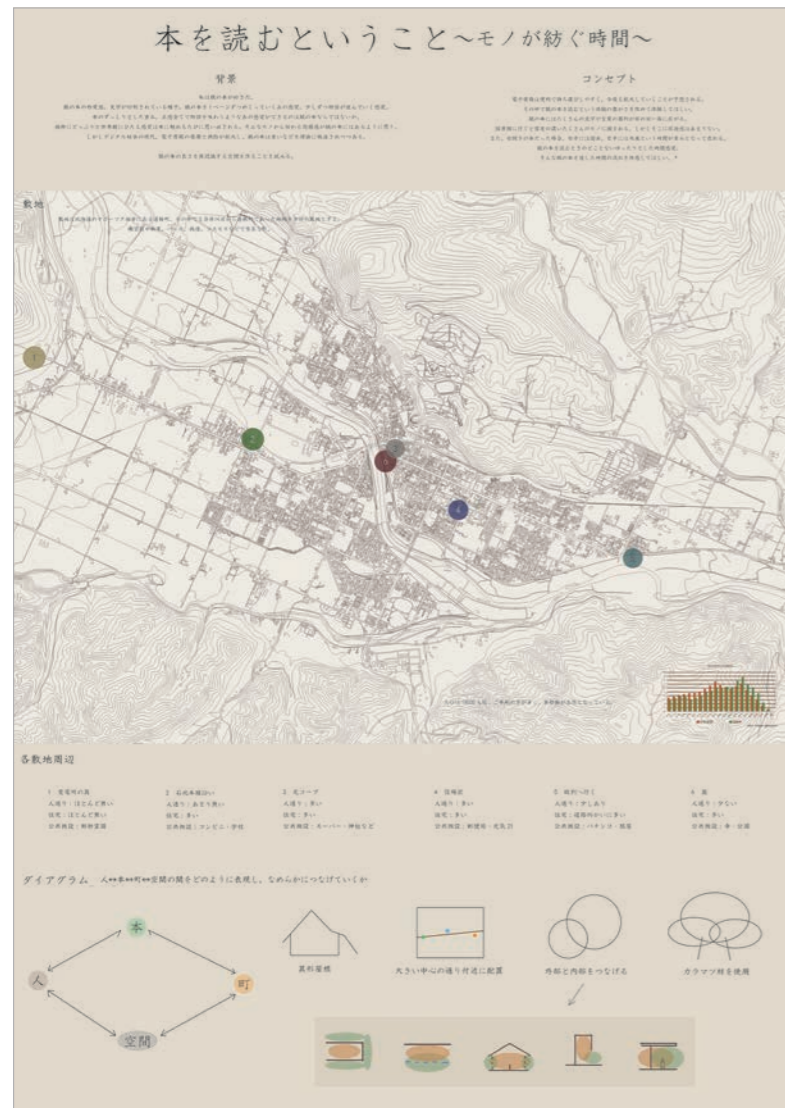
作業場 漁師が漁具の手入れを行ったりワークショップなどのイベントを開いたりする。漁師・体験者・研究者・地域住民が集まり、創作活動の中心の場となる。	研究室 マリンITのサテライトラボを開発する。漁師と研究者の距離を近くし、互いに情報共有や協力体制を取りやすくすることで漁業のさらなる発展へとつなげる。	研修室 漁業体験者の座学講座や、就業後のステップアップ、必要免許取得を目的に漁師同士で勉強会などを開く。
宿泊棟 長期漁業体験者やラボの利用者の滞在場所。それぞれの個室と宿泊者が集まって交流できるキッチンやラウンジなどの共用部がある。	共同キッチン 漁を終えたあと、お母さんたちが作った朝ご飯をみんなで食べる。日中は、釣りに訪れた人が釣ったばかりの魚をさばいて食べる。	カフェ 函館〜恵山のドライブの休憩ポイントや近隣住民の憩いの場として利用。漁師の仕事先の様子を見ることで漁業へ関心を持つきっかけを作る。

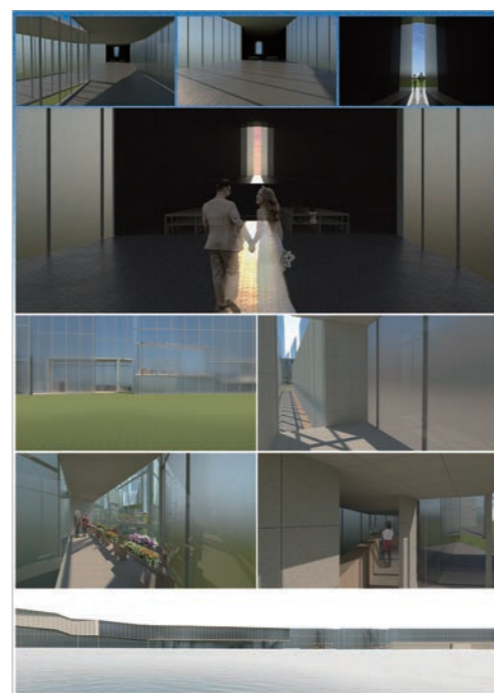
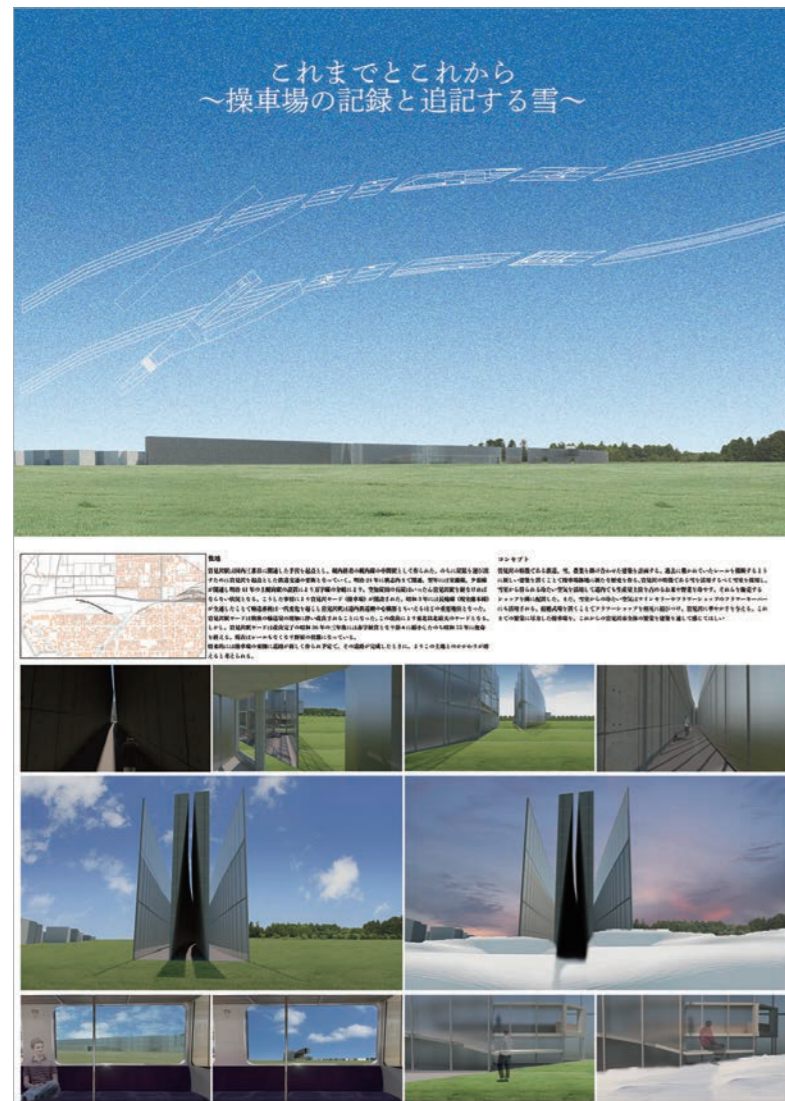
ダイアグラム

豊かな海は豊かな森があっても実現できる。森の崩壊からつくられた崖は川によって覆われ、それによって魚のエサとなるプランクトンが豊富な。漁師は海の仕事であるが、海の資源を守るために森林運動にも参加している。この森→川→海の流れをモチーフにする。









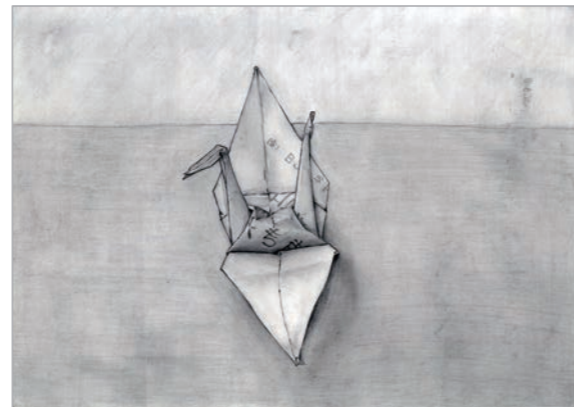
4319105	上田 侖	Rei Ueda	狸小路商店街の二層化を繋ぐ音楽を交えたコミュニケーションスペース
4319118	鈴木瑛美	Eimi Suzuki	花園銭湯基地 ～湯、まち、人の再沸騰で冷えきった商店街を温める～
4319121	田中秀汰	Shuta Tanaka	最掘る広場 ～屋内遊戯場で広がる地域での子育てを目指して～
4319122	近村 萌	Kizashi Chikamura	「ひびきの丘～Hokkaidoホロトピックセンター～」の基本計画・基本設計(案)の策定 ー市立小中学校から統合医療研究所への用途変更ー
4319136	湯田 葵	Aoi Yuda	Trace Back ー酪農における生産・加工・販売の包括ー
4318134	武者凌平	Ryohei Musha	無機物の森を渡る ー衰退した廃工場から達着する陳腐な日常への渴き-
4319202	池野瑠里子	Ruriko Ikeno	黎明 ～次世代漁業を支える漁師と技術の創出～
4319205	大畝悠介	Yusuke Ose	御山の灯籠 ～彼方者の標で彼等を想う～
4319212	塩野谷基悟	Kisato Shionoya	建築と空間性の強い場所
4319219	中塚遥己	Haruki Nakatsuka	モリグラシ ー森林との共存共栄ー
4319230	丸山莉奈	Rina Maruyama	本を読むということ ～モノが紡ぐ時間～
4319232	三本菜那子	Nanako Mitsumoto	Co+housing ー「交流」と「協力」から生み出す新たな更生生活ー
4319233	村山はる	Haru Murayama	これまでとこれから ～操車場の記録と追記する雪～
4319236	渡邊智帆	Chiho Watanabe	E-cycle plant 都市に馴染む複合型クリーンセンター

① 問題用紙をモチーフとした平面構成

この紙を自由に加工し、画用紙に鉛筆で描きなさい。(素材は鉛筆)
紙のもつ性質と印刷された文字をうまく生かしながら表現すること。



① 三浦葵里
Kiri Miura
4322137



① 小林もえ
Moe Kobayashi
4322117



① 早田健将
Kensyo Hayata 4322131



① 大井里桜
Rio Oi 4322106

② 季節をテーマとした自画像

季節をテーマに自画像を描きなさい。(素材は鉛筆)
自画像の配置は自由ですが、画面に今の季節を感じさせる要素を必ず入れること。



② 吉田璃子
Riko Yoshida 4322144



② 木田健介
Kensuke Kida 4322113



② 小野鉄生
Tetsusho Ono 4322111



③ 渡辺咲奈
Sana Watanabe 4322146



③ 入井菜瑞奈
Nazuna Irii 4322209



③ 中島羽琉
Haru Nakajima 4322228

④ コラージュを主体とした平面構成

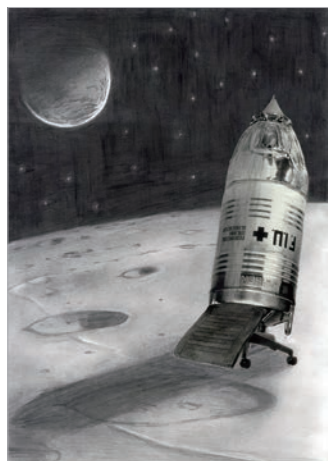
与えられた写真の中から2要素程度とりあげ、それらを主役とした画面を構成しなさい。(素材は自由)
コラージュしたものが画面の中で自然に存在するよう空間を描くこと。



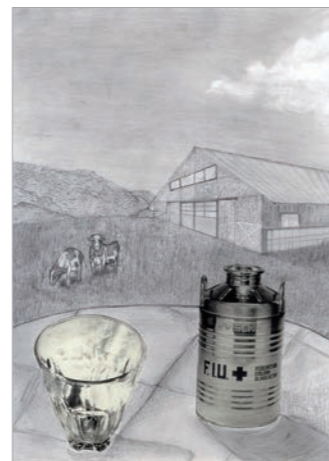
④ 原田依吹
Ibuki Harada
4322132



④ 永平楓果
Fuka Nagahira
4322229



④ 齋木涼太
Ryota Saiki 4322221



④ 中村海斗
Kaito Nakamura 4322128

⑤ 身の回りのモノをモチーフとした細密画

細密描写にふさわしいモチーフをあなたの身の回りから探し出し、平面構成しなさい。(着彩)
全体のバランスというより、普段は面倒臭くて省略したくなるような細部に視点を向けること。



⑤ 行部葉菜
Hana Gyobu
4322116



⑤ 菅田修翔
Shuto Sugata
4322123



⑤ 赤塚尚真
Shoma Akatsuka 4322101

⑥ 建築と私をテーマとした立体構成

与えられた素材(スチレンボード、樹脂粘土)を最大限に生かし「建築と私」をテーマに自由に表現しなさい。(素材は自由)
但し、作品サイズは28cm×21cm×5cmの範囲内とする。



⑥ 門馬日和
Hiyori Monma
4322241



⑥ 益田紀乃
Kotono Masuda
4322238



⑥ 近藤蒼真
Soma Kondo
4322118

個人課題

「ツールのデザインと制作」

《発想と寸法と強度》

背もたれのない腰掛け=ツールは、人の体重を支えるという極めて単純明快な機能を果たす。果たすべき機能がたったひとつであるが故に、存にデザインされたツールは無数に存在し、かつ、そのデザインの可能性は依然として無限に広がっている。
段ボールを材料として、発想と寸法と強度とが調和し、実際に座ることが可能なツールをデザインしてほしい。



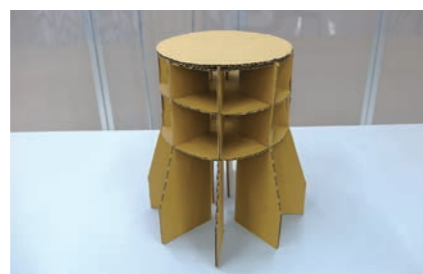
有村萌花
Moka Arimura
4321101



村中啓剛
Keigo Muranaka
4321233



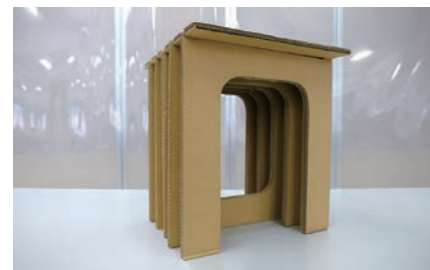
伊藤健夫
Keno Ito
4321103



佐藤智哉
Tomoya Sato
4321112



社内瑞希
Mizuki Shanai
4321114



佐藤沢音
Takuto Sato
4321211



中村 龍
Ryu Nakamura
4321222



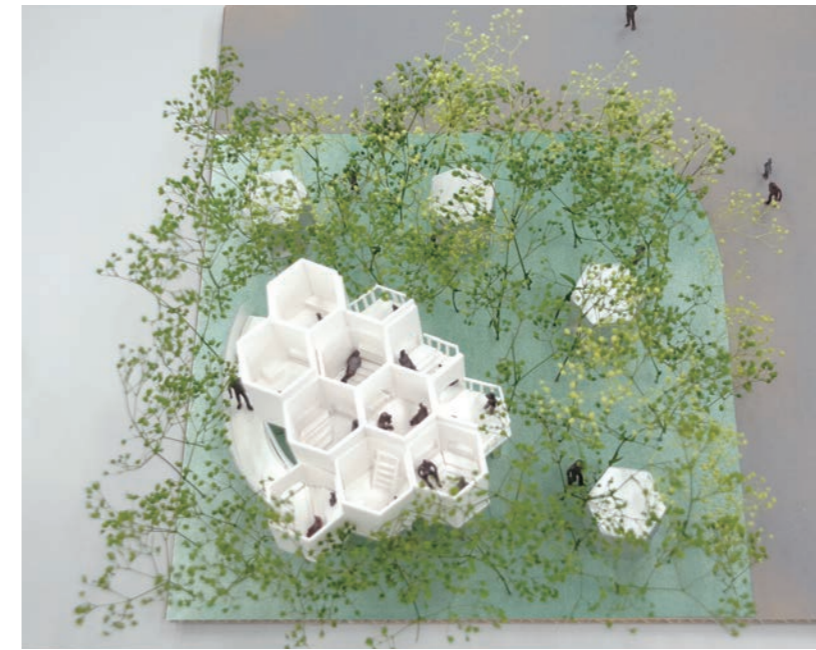
真鍋 孝輔
Kosuke Manabe
4321231

最終課題

「待つ+」

《シャトルバスバス停デザイン》

山鼻キャンパスと豊平キャンパスとを繋ぐシャトルバスは、それが果たす役割について、概ね好評との情報が得られている。
しかし現状、バスに乗車する場所には、「待つ」という行為に対するなんらかの適切な配慮は乏しい。今後、空間と向き合っていく歩みのスタートとして、「待つ」という行為をじっくりと見つめ直し、あなたならではのバス停を創造してほしい。



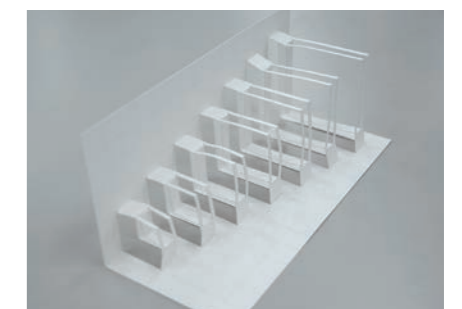
有村萌花
Moka Arimura
4321101



中村 龍
Ryu Nakamura
4321222



山本大夢
Hiromu Yamamoto
4321235



佐藤智哉
Tomoya Sato
4321112

カフェ・テラス

工学部校地の一角に建つ学生・教職員のための「たまり場（カフェテラス）」の設計。敷地は東西12m×南北15m。床面積は50㎡程度まで。用途は喫茶を主とするが、作品展示コーナー、ミーティングルームなど、各自が必要と考えるスペースも自由に盛り込んでよい。

七尾美奈
Mina Nanao

4321126

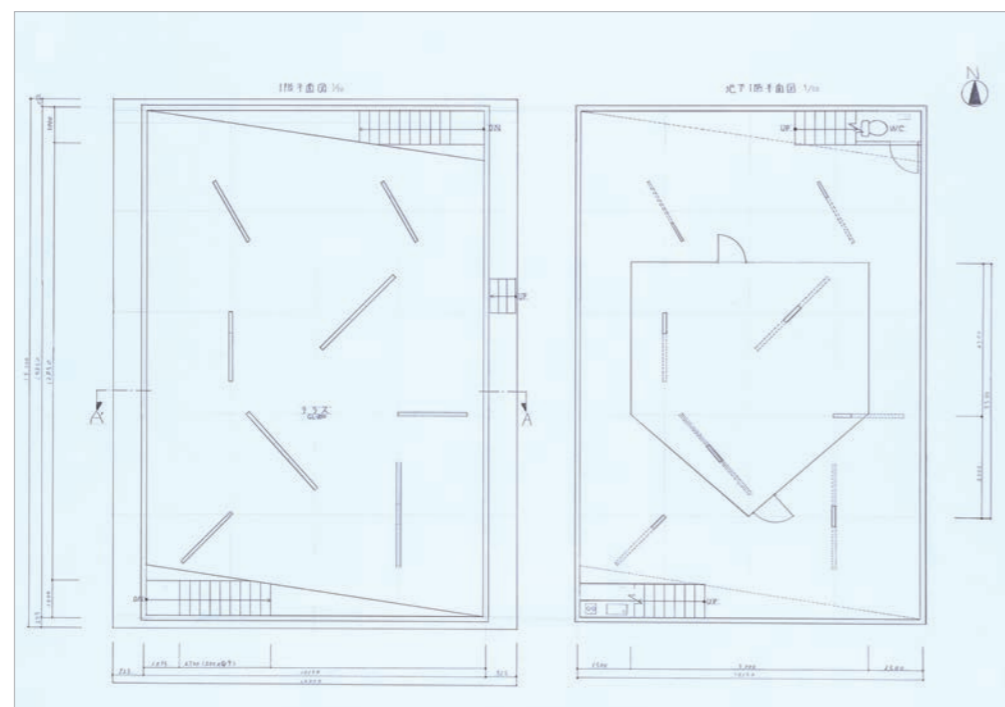


Wall Forest

コンセプト
大きな壁で空間を仕切ることで、人の視線を気にせずにくつろぐことが出来る空間を目指しました。ランダムに配置された壁の間に出来た空間の中でお気に入りの居場所を見つけて過ごしてもらえよう工夫しました。天井の高さを地下は2m、1階は4mと変えることで、地下は洞窟のような落ち着く雰囲気、地上1階は広々とした雰囲気になっています。また、壁の形を下が小さくなるように斜めにする事で、地上1階と地下1階で雰囲気が変わり、空間の広さにも変化をつけています。キッチンやトイレは階段下に置くことで、室内空間の広さを確保しました。

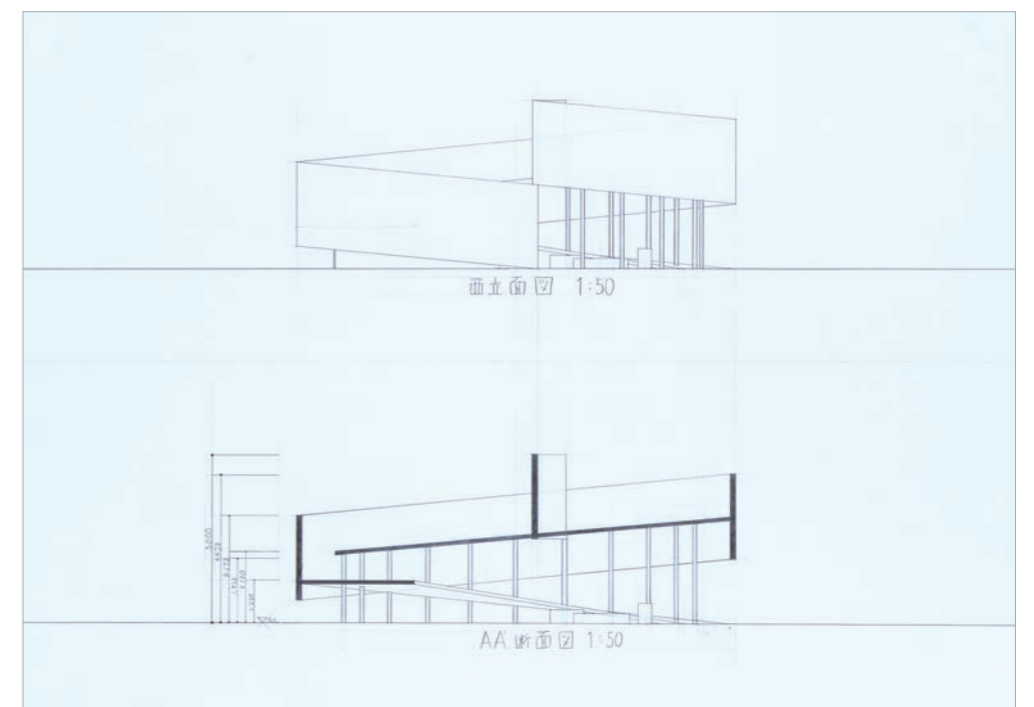


延床面積 52.69㎡



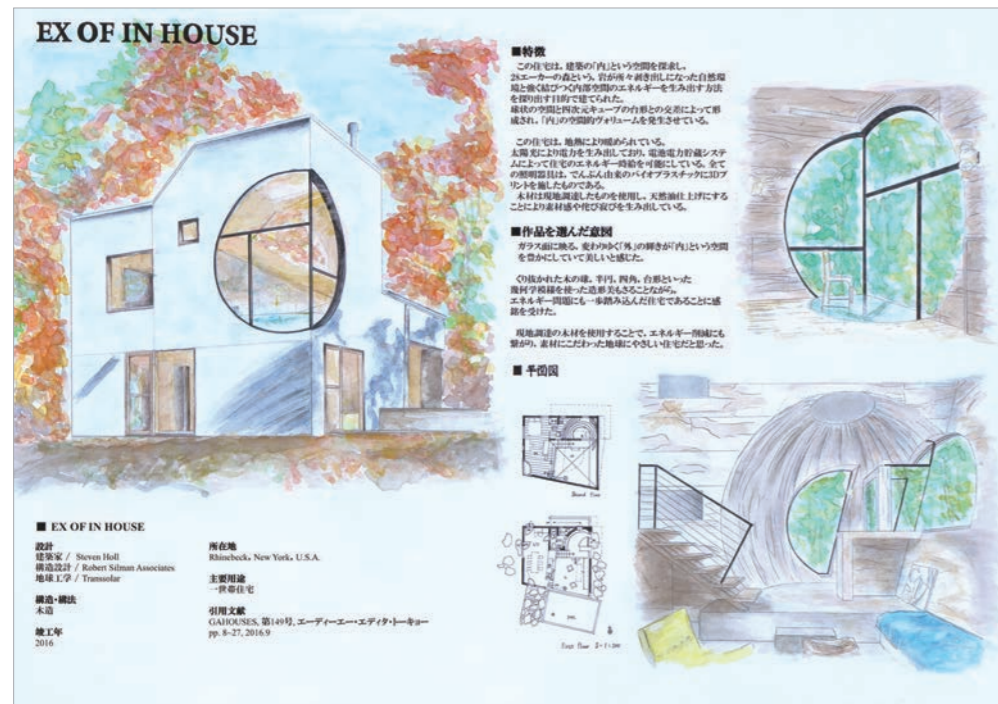
中村 龍
Ryu Nakamura

4321222



小課題「住宅をさがそう」

デザインを学ぶ効果的な方法の一つは、優れた作品をたくさん見ること、そしてそれを手で描いてみることです。この課題はそのためのトレーニングであるとともに、次の課題「住宅」のための事例研究も兼ねています。

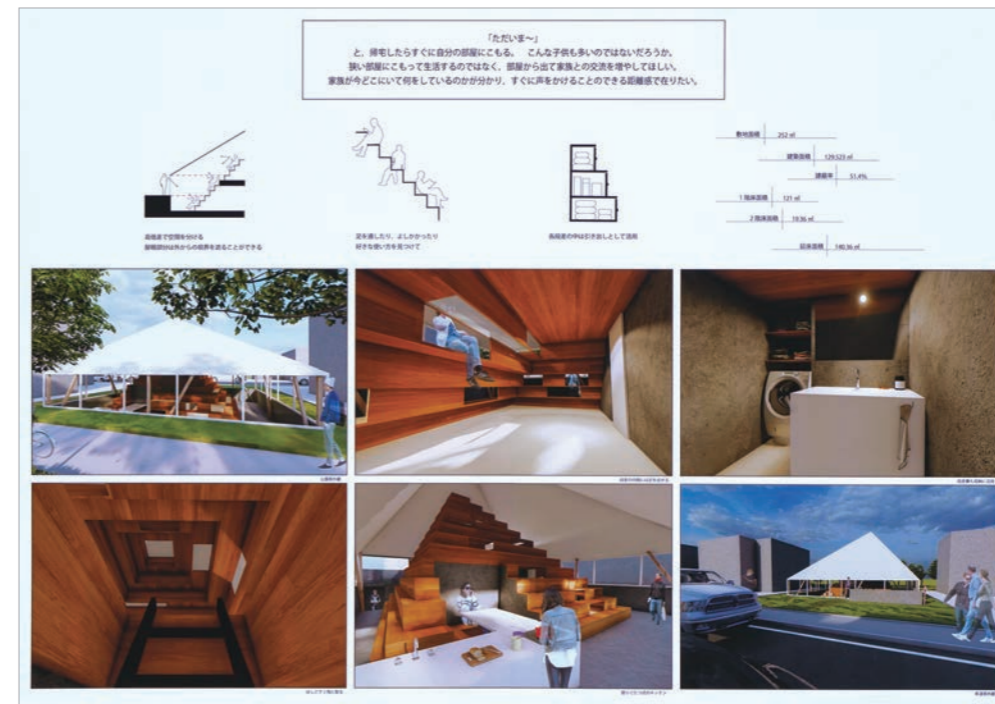


有村萌花
Moka Arimura
4321101

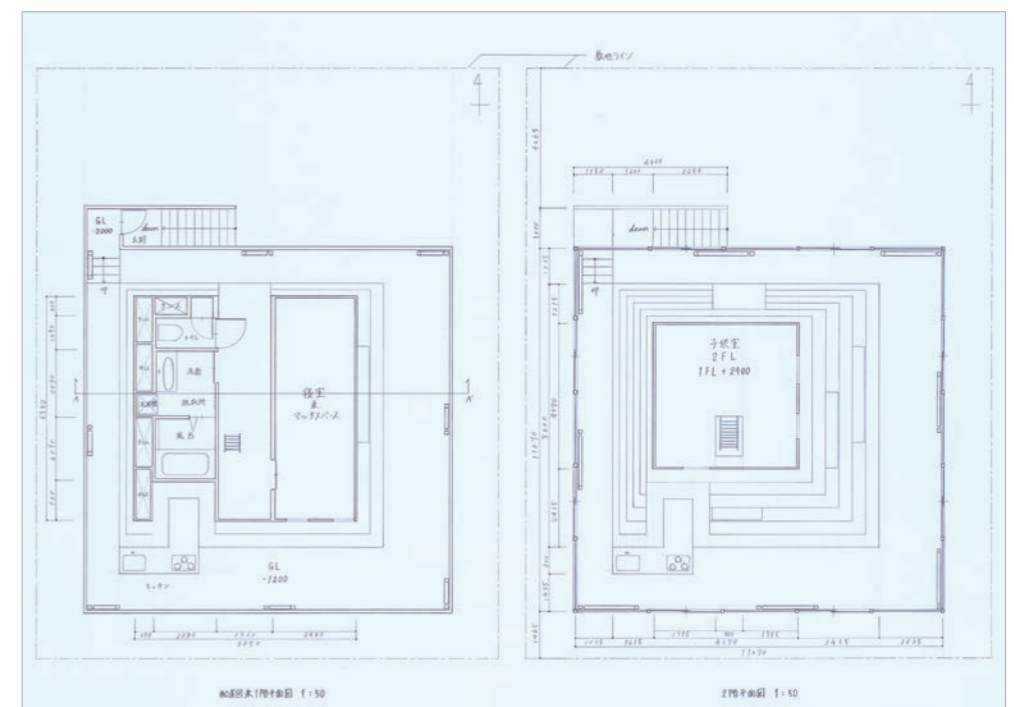
住宅

現代人の生活にふさわしい魅力ある住まいの設計。敷地は東西14m×南北18m。北に車道、南にプレイロットと遊歩道が隣接。周囲は閑静な住宅地。家族構成は夫婦と子供二人（10代の長男、長女）。

有村萌花
Moka Arimura
4321101

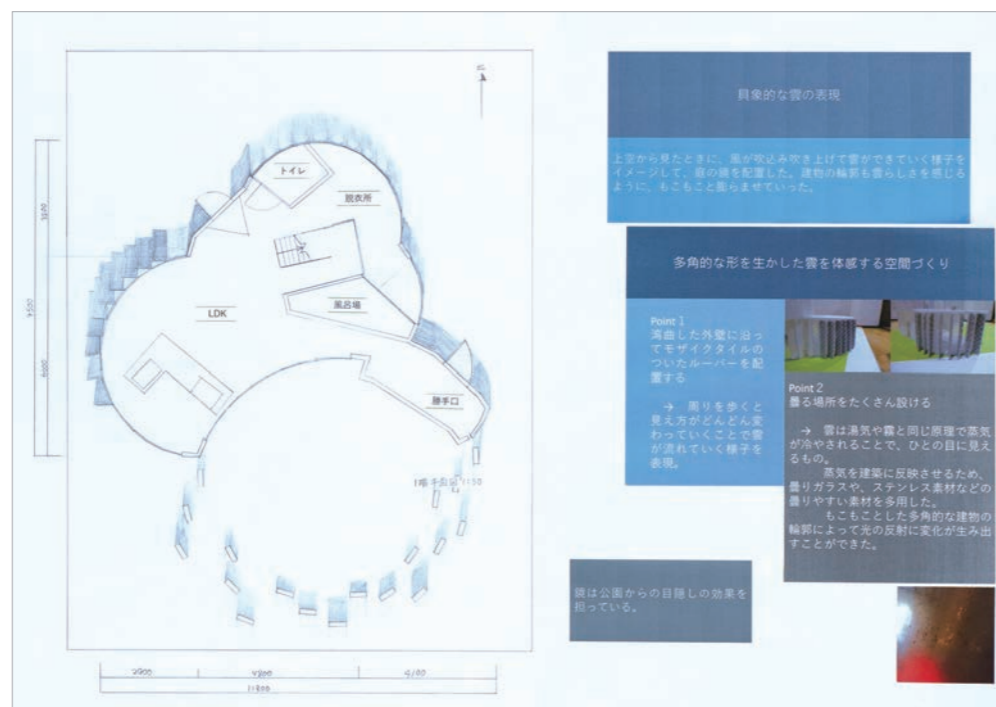


西垣優衣
Yui Nishigaki
4321223



住宅

西垣優衣
Yui Nishigaki 4321223

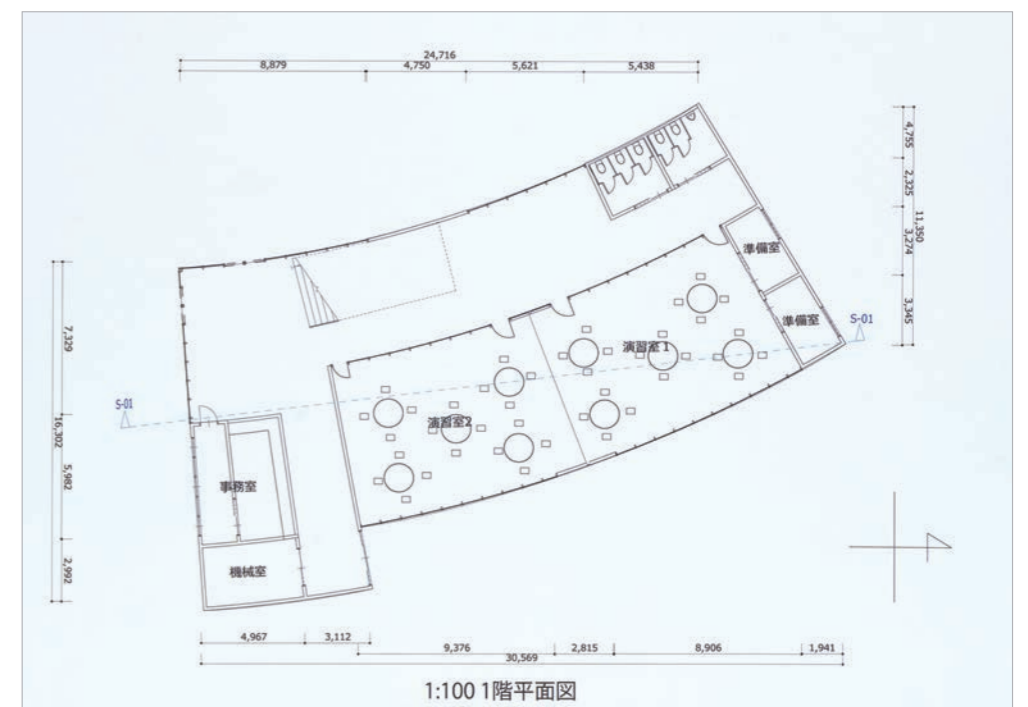


デザイン・スクール

福田涼太
Ryota Fukuda 4320136



これは、趣味や日常生活、あるいは将来の仕事のためにデザインを学ぶための建築です。(ファッション、インテリアの2コース。2年制)。デザインの勉強にふさわしい雰囲気のキャンパスと学校生活を楽しめるような場を留意してほしい。設計にあたっては次のことに留意してほしい。 ①授業ばかりでなく、課外での学習・休憩など、学生の活動・動きを考えた建築の提案。(内部空間のほか、校庭など屋外の場のあり方、内部とのつながり方など) ②校舎全体が円滑に機能するような各空間の配置の検討。(教室群、演習室、教員室、図書室、管理用諸室、休憩・移動空間、屋外の居場所など、相互の位置関係) ③敷地周辺の環境との関係や住民に開かれた建築の提案など。



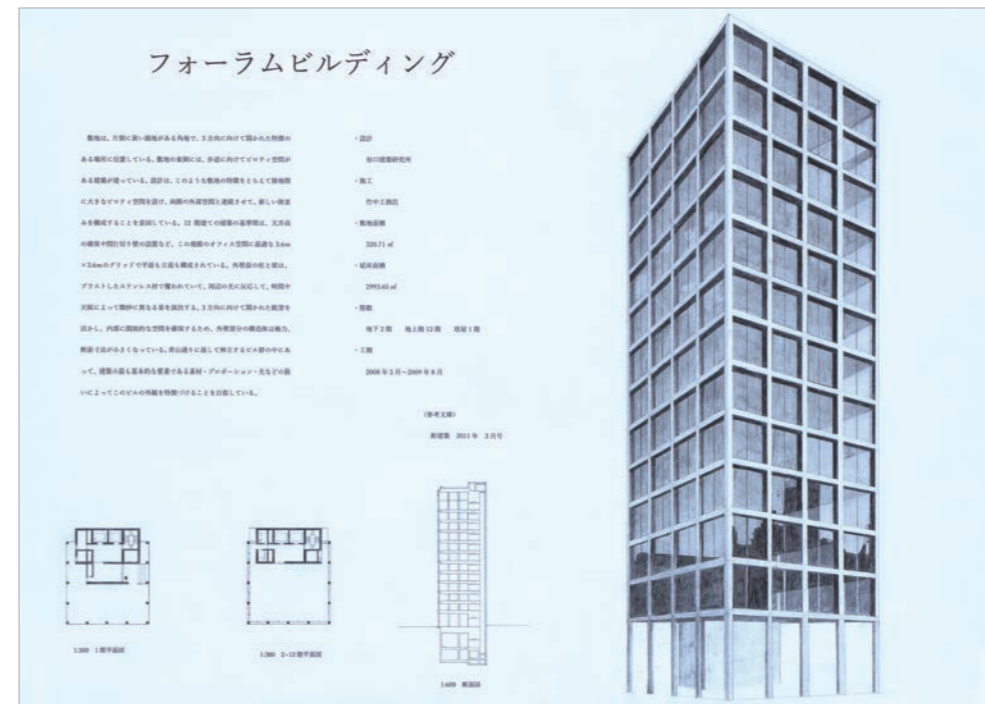
デザイン・スクール

渡辺倫大 4320246
Tomota Watanabe

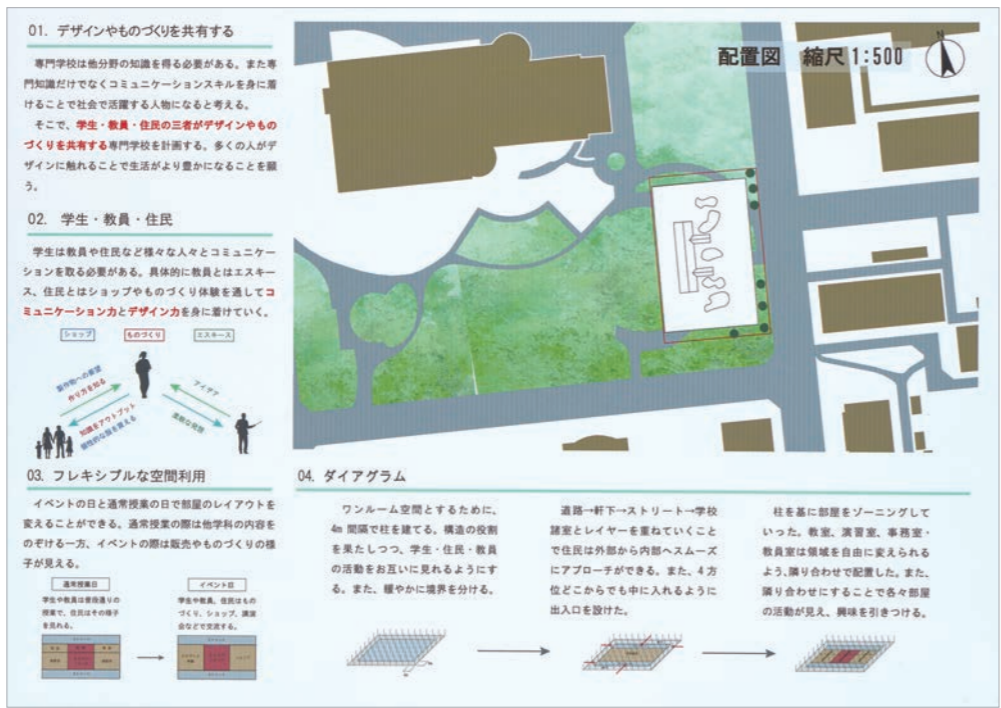


小課題「建築作品をさがそう」

この課題の目的は空間デザイン演習 I の場合と同じく、多くの優れた作品を見ること、そしてそれらを自分の手で描いてみることを通して、形態・空間・設計手法などを学ぶことにあります。対象建築については、①住宅・集合住宅以外。ただし、現代建築に限定。②専門雑誌、作品集などの専門図書に掲載された話題性や評価の高い作品の中から、気になる作品、好きな作品、あるいは勉強になる作品を1点選択する。



福田涼太
Ryota Fukuda
4320136



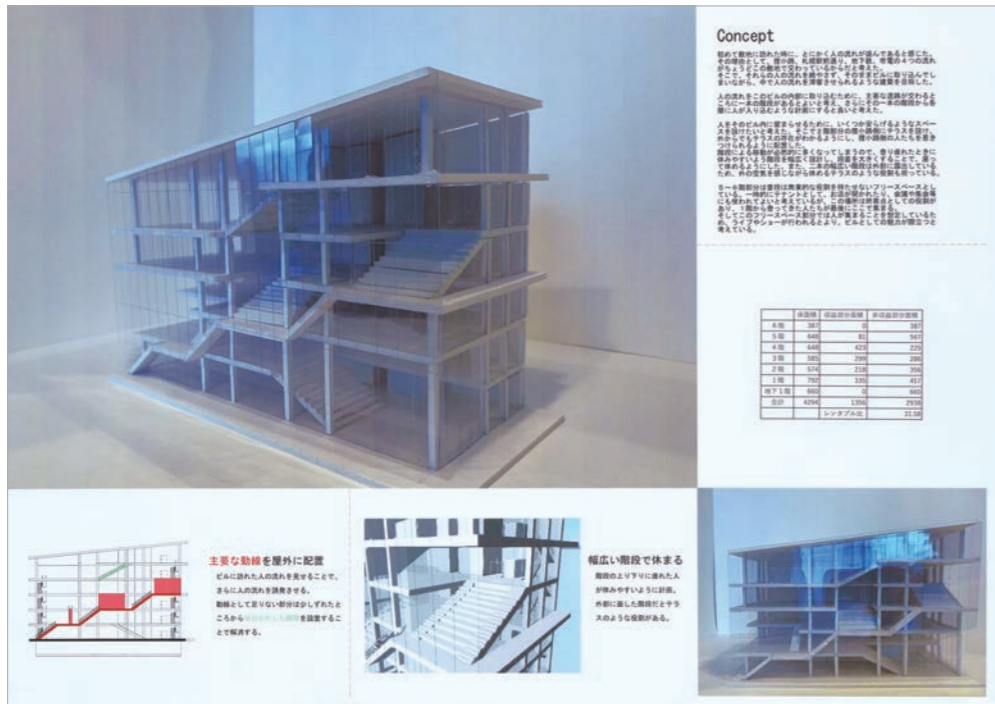
源 竜河
Ryuga Minamoto
4320235



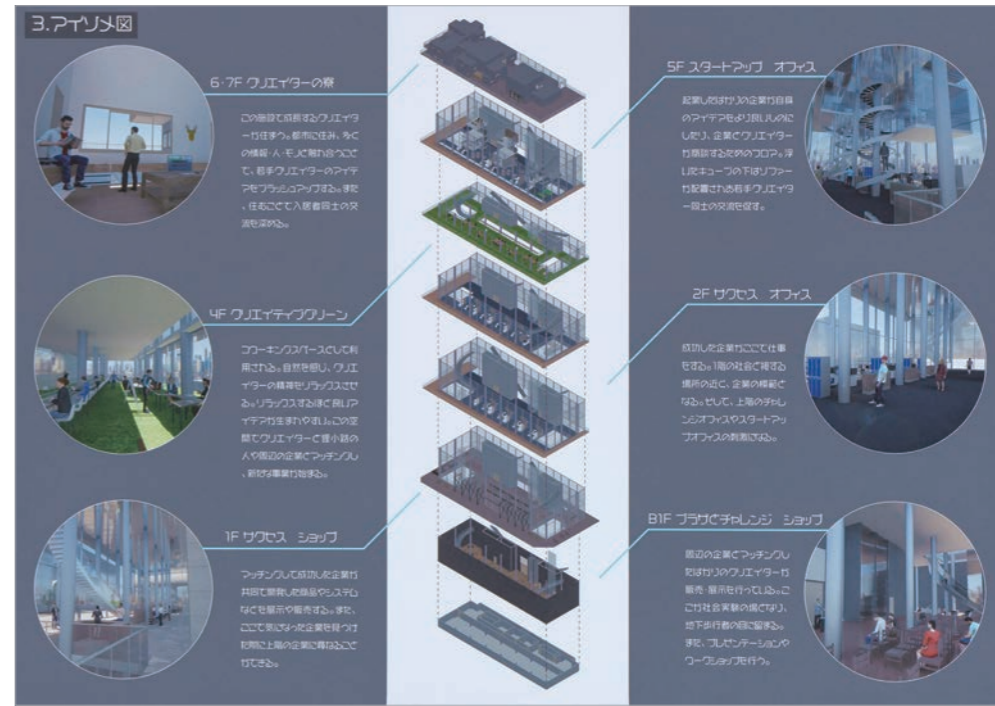
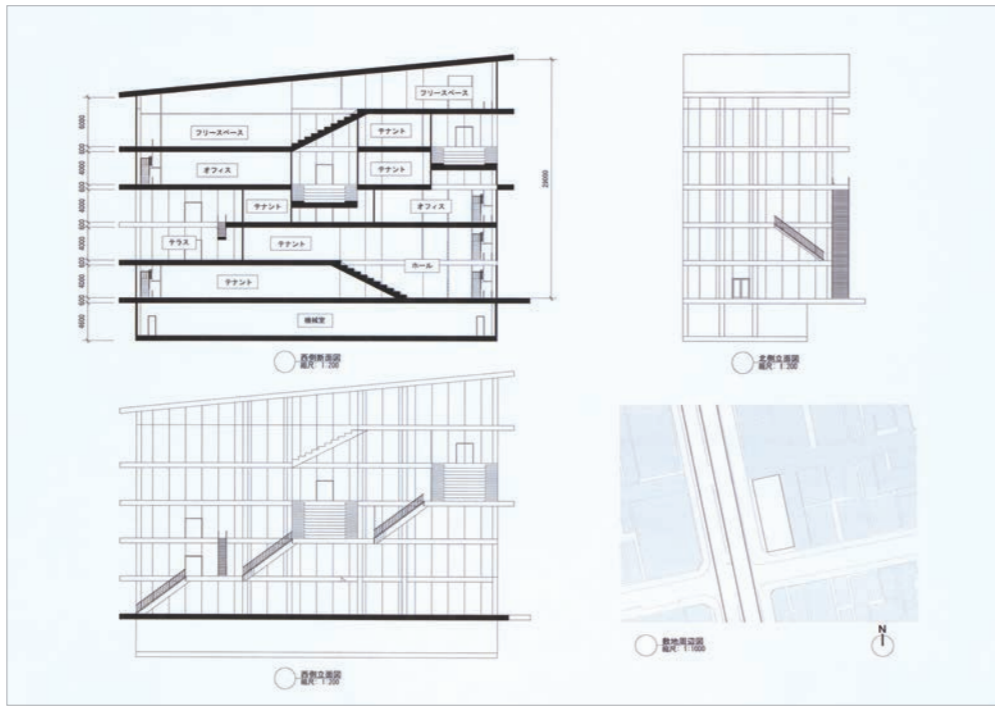
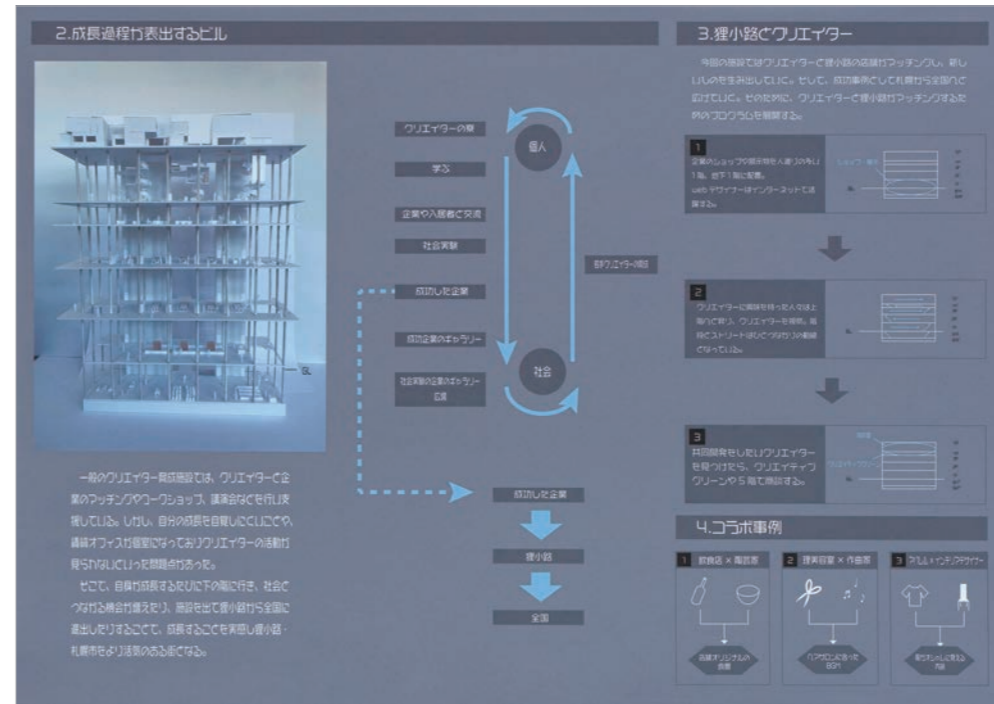
テナント・ビル

床を多層化したビルは都心における建築の典型です。多層化に伴い構造、設備、交通空間などが立体化し、近隣のビルや街並とも密接した関係におかれます。それらは制約条件といえますが、同時に都市建築ならではの特徴でもあります。都心に働く人々や都心を楽しむ人々にとってどのような建築が期待されるか、また街並や敷地条件に対してどのような建築がふさわしいか、テナント・ビル設計を通じて提案してほしい。

高橋力生 Riki Takahashi 4320126

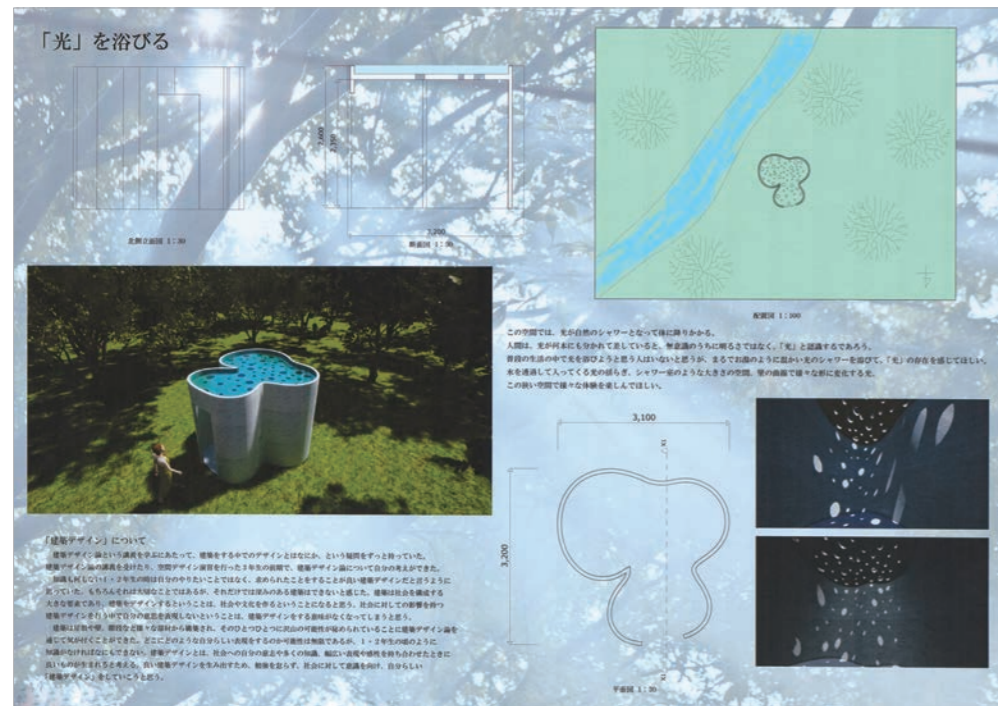


渡辺倫大 Tomota Watanabe 4320246

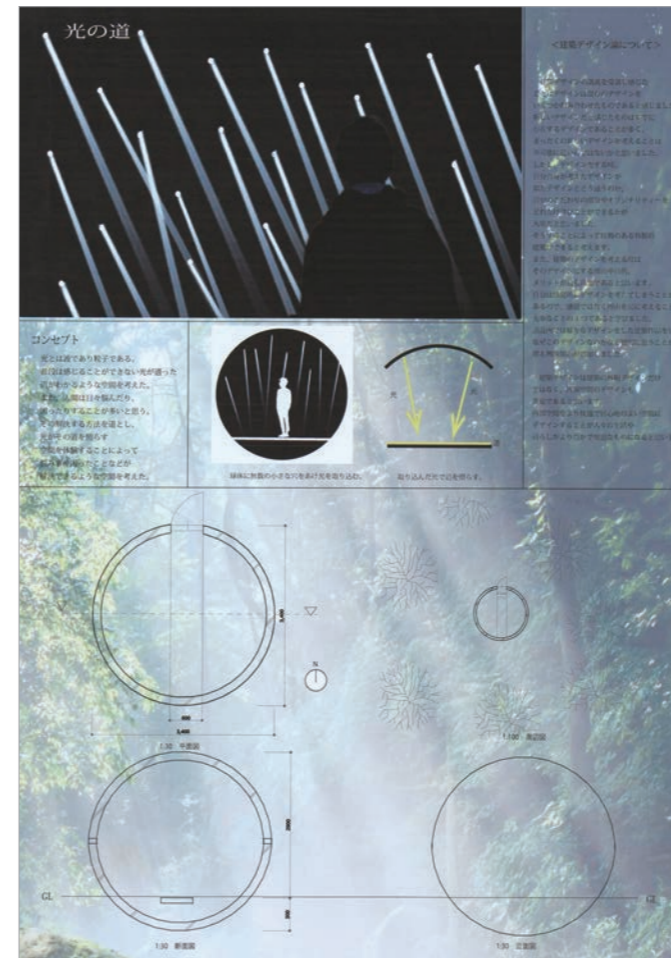


光の空間

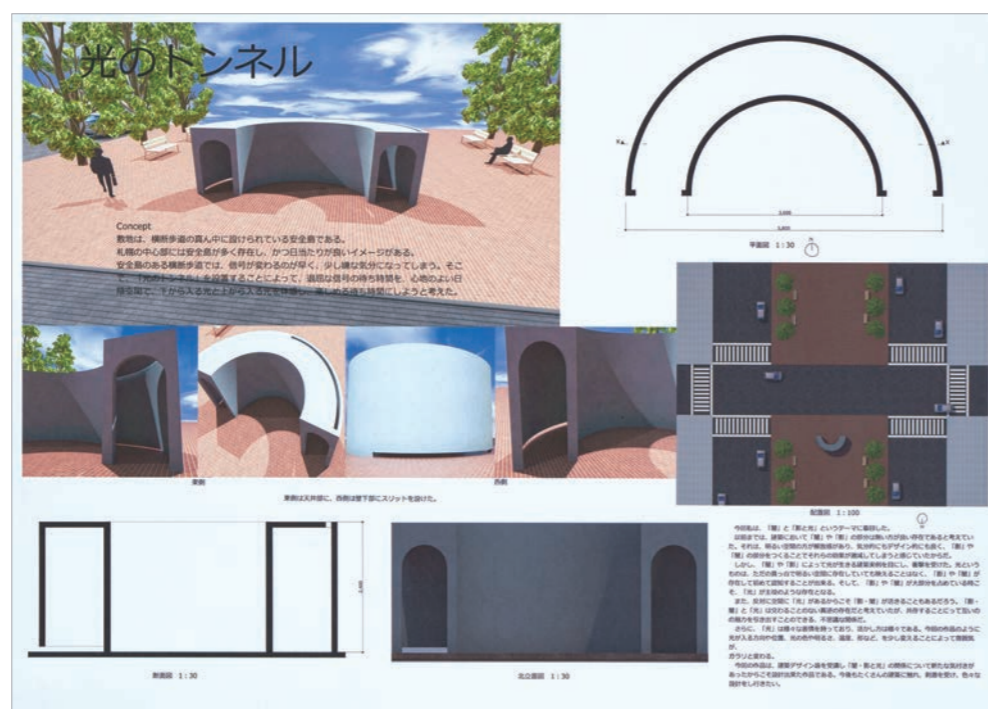
建築空間の豊かさは、面積や容積のような数量を基準に判断できるものではありません。人間がその空間を体験したときに、何らかの印象として知覚するものです。そのような印象を与える要素としては、例えば、ヴォイドの輪郭、素材や色、多様な動線、外部との関係、そして光の変化などがあります。これらによる空間効果は、広く大きい空間よりも、狭く小さい空間から、より実感できます。なぜならば、限定される不自由さが、独創的なアイデアを生むからです。今回の課題は、限定された20m²の空間の中に、「光の空間」をデザインします。



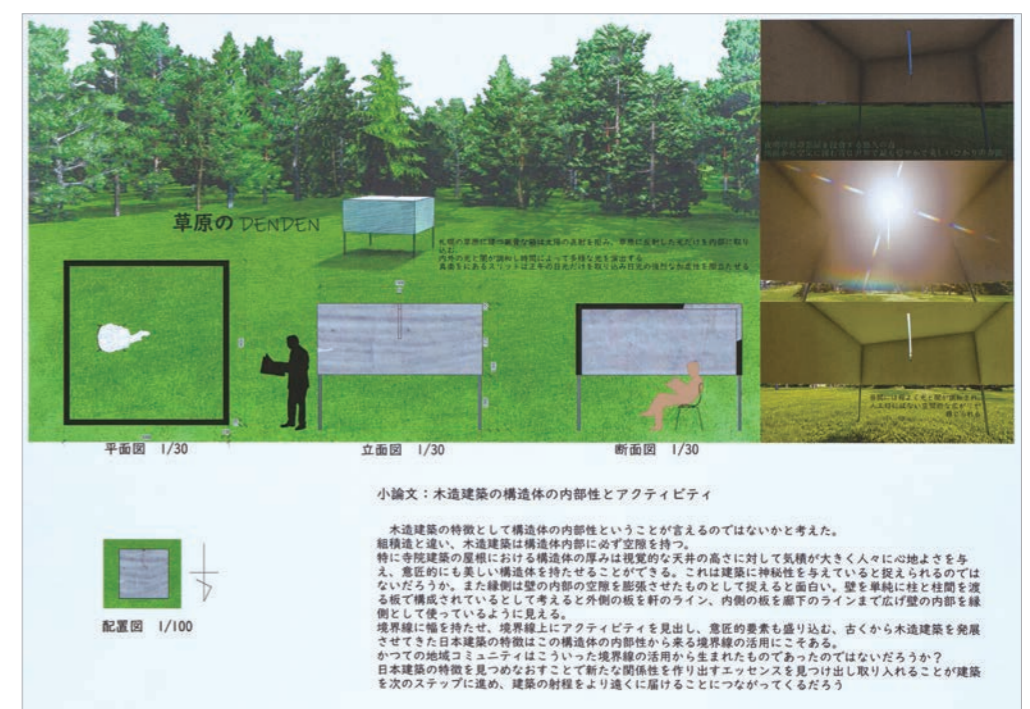
「光」を浴びる
芝田碧敬
Aoto Shibata
4320221



光の道
木村凌雅
Ryoga Kimura
4320214



光のトンネル
齋藤未波
Minami Saito
4320216



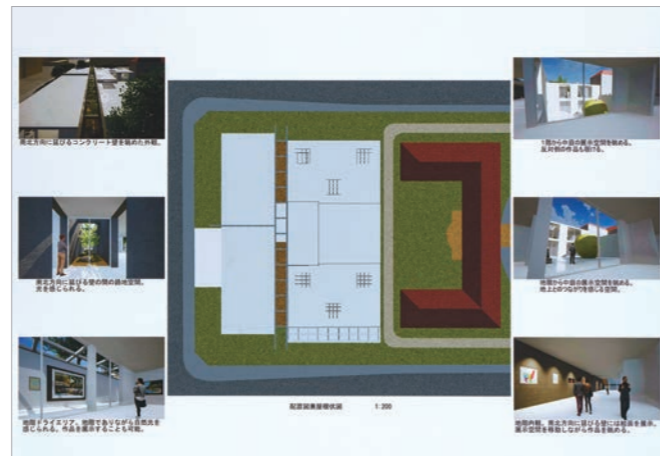
草原のDENDEN
山下建
Takeru Yamashita
4320242

アート+建築=X

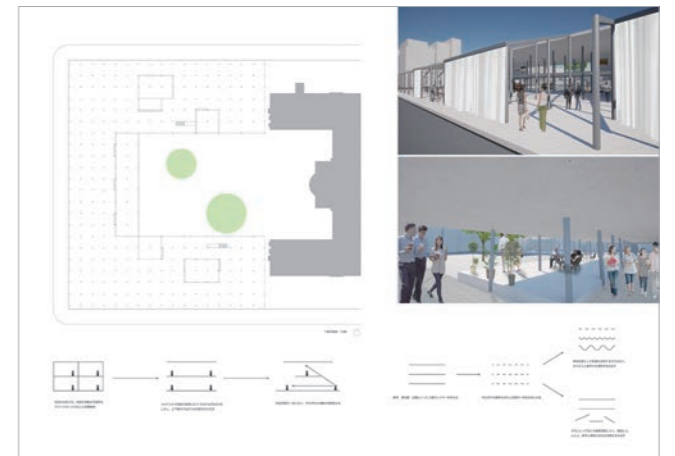
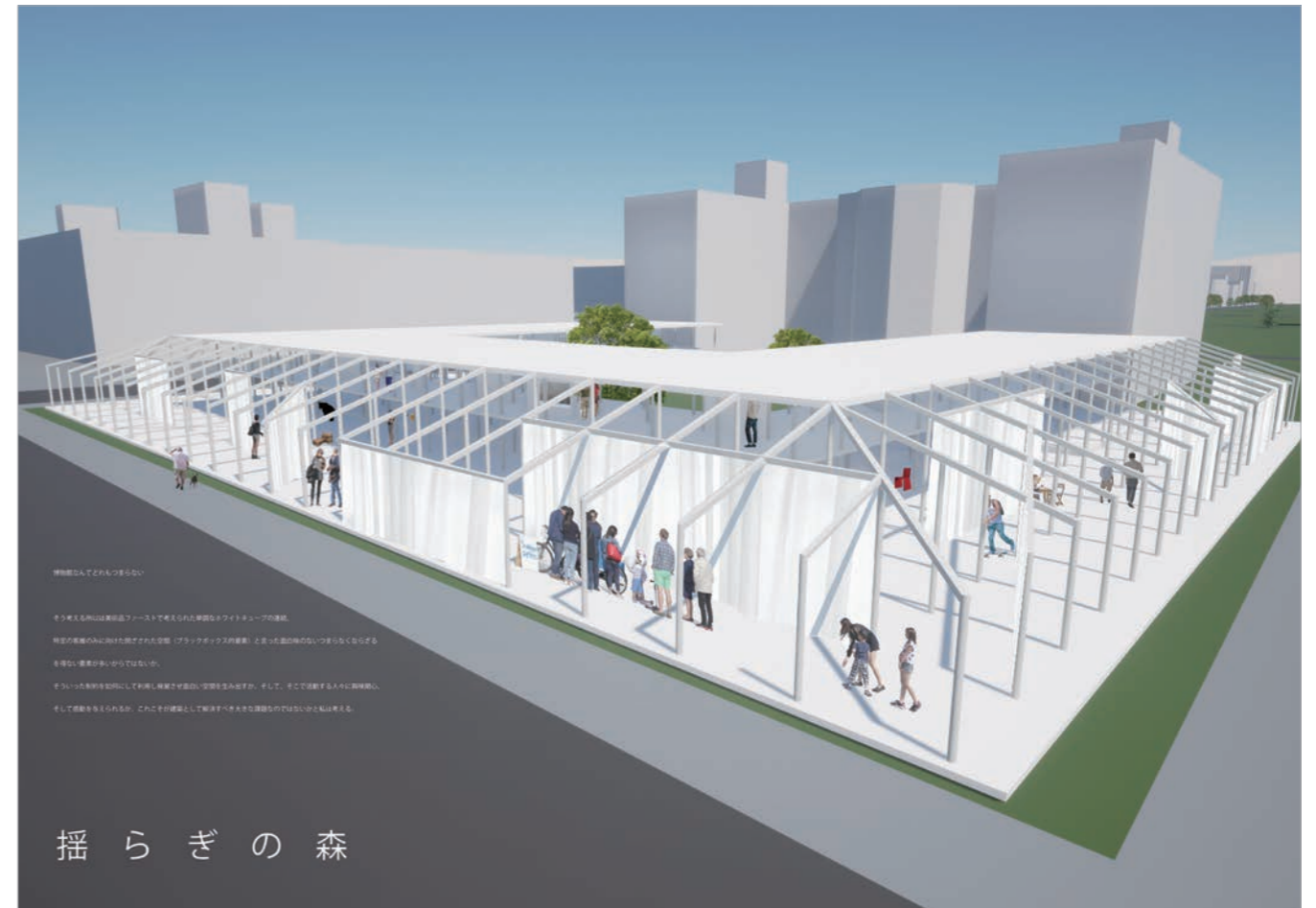
アートと建築について考えてみよう。

アートという言葉からは、芸術や美術とは異なる印象が伝わってきます。アートは、芸術や美術と言葉の意味することは同じとは言え、あまり堅苦しい印象はなく、比較的人々にとって身近な存在になっています。現在の都市空間の中には、表現手段は多様なながらもアートは満ち溢れています。このようなアートを建築と組み合わせるとどうなるでしょうか。既存のビルディングタイプからは、美術館が想像させられます。しかし、既存の美術館は、展示された芸術や美術作品を「見る」という行為が中心になり、展示空間では、学芸員などの管理者側の視線によって、作品との間に距離感を生じさせています。今回の課題では、芸術や美術に限定せず、人々にとって身近な存在であるアートと建築の関係を模索しながら、今までの美術館とは異なる建築を設計することを目的としています。アートと建築に関しては、表現媒体としての共通性がありますが、それぞれの目的性は決して同じではありません。時間軸を中心に考えると、建築はアートより恒常的なもので、長い時間に耐えることが要求されると考えられます。しかしながら、現代社会においてはアートと建築の境界線は必ずしも明確ではありません。アート+建築=X、このXを提案して下さい。

高橋力生 4320126
Riki Takahashi



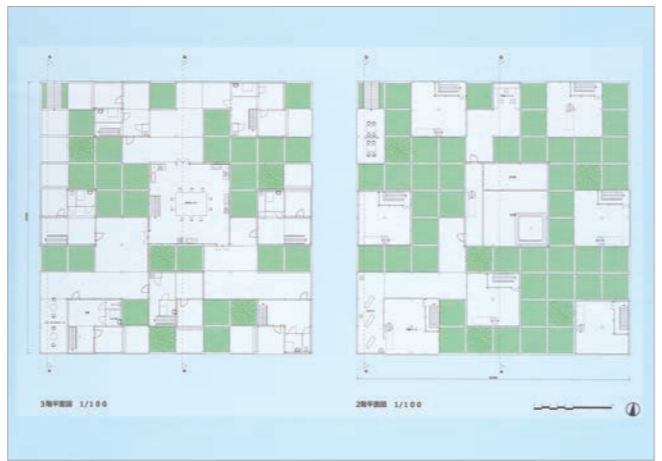
安藤 翼 4320204
Tsubasa Ando



電車通りの「みんなの家」

「いえ」は生活のよりどころです。したがって、「いえ」は生活者の意思や好みが反映し、所有する敷地の中では生活者の自由が保障されています。しかし、「まち」は違います。「まち」は、様々な好みを持った人たちが共有する空間です。「まち」の本来な目的性は、人々の多様性を受け入れるところにあります。複数の世帯が集まって住む共同住宅は、「いえ」と「まち」の間に位置している建築です。したがって、共同住宅は、個人の住む空間の快適性を追求することも大切ですが、「まち」との関わりを意識することも大切になってきます。しかし、現在の既存の共同住宅（マンションやアパート）は、均質化した住戸が反復しているだけで、「いえ」と「まち」の間にある魅力的な共有空間が与えられていません。その結果、「いえ」と「いえ」の交流、そして「まち」との交流が広がらないのが実情です。今回の課題、電車通りの「みんなのいえ」は、このような観点から、「いえ」と「いえ」、「いえ」と「まち」の間を考えることを主な目的としています。札幌の都心に住むことを前提にしながら、個人の快適な空間だけではなく互いの関係を意識できる空間として、集まって生活することができる魅力的な建築環境を提案してみてください。

芝田碧敬
Aoto Shibata 4320221



渡辺倫大
Tomota Watanabe 4320246

偶発の波及
一市電沿いにおける地域を繋ぐ学生寮一

1. コンセプト | 得意分野を寄与

学生には活力や多くの時間があることから過ごし方によって、今後の生活が変わってくる。しかし、一人暮らしの学生は部屋にこもり、交流が少なく社会との関係が希薄である。

そこで、学生の得意な分野を地域に寄与することでコミュニティの場となり、活力が波及していく。

2. 背景 | 社会との接点とアウトプット

大学生や専門学生は学校で専門分野を学び、その後は帰宅したり、アルバイトをしたり、遊んだりと自由に過ごすことが多い。しかし、一人暮らしだと地域との交流がなく、学んでいることを活かす場所がないことが問題だと考える。

個人で完結している
一人に活かせない

3. 敷地 | 札幌市中央区南21条西14丁目

敷地は住宅街と市電通りの間にあり、周辺には保育所や介護施設、図書館など多世代の居場所が多くある。しかし、多世代交流スペースがなく賑わいがない。

1. 調査・分析 | 市電沿いの学校と駅

敷地周辺の市電沿いの学校と駅は、徒歩圏内であり、その利便性を活用して学生が大学での学びの場から地域へとつながる。また、市電沿いの学校と駅は、学生が地域へとつながる重要な拠点となる。また、市電沿いの学校と駅は、学生が地域へとつながる重要な拠点となる。

2. 調査・分析 | 学生の得意な分野を地域に寄与

学生が得意な分野を地域に寄与することで、地域に活力が波及していく。また、学生が得意な分野を地域に寄与することで、地域に活力が波及していく。

3. 敷地・材料

敷地は住宅街と市電通りの間にあり、周辺には保育所や介護施設、図書館など多世代の居場所が多くある。しかし、多世代交流スペースがなく賑わいがない。

大通公園前の図書交流館

いまの図書館に、不満を持っていませんか？

既存の図書館は、主に利用者に収集した資料や情報を最大限に提供し、調査研究に役立てる社会教育施設として機能しています。しかし、普段利用する上では、利用者の書斎であったり、勉強部屋のような場所であったりと、日常的な空間の延長として存在しているのが実状だと思います。しかし、既存の図書館をかえりみると、いかにも「公共建築的」で、人々が心地よい場所として利用できる本来の建築空間としての視点が大きく欠けています。その居心地の悪さが人々のためのコミュニティスペースとしての機能性を満足させていない理由にもつながっています。本来の公共建築には、もっと人々の交流の拠点となるような、生きた建築が求められているはずです。今回この課題で、札幌の都心に、図書館の機能を中心とした、人々のための、あるいは個人のための新たな「図書交流館」を考えてみます。このロケーションは、大通公園に隣接し、札幌のランドマークであるテレビ塔や創成川公園、そして時計台にも近い魅力的な環境でもあります。この環境を生かすことによって、さらに札幌の魅力を高めることができるのではないのでしょうか。

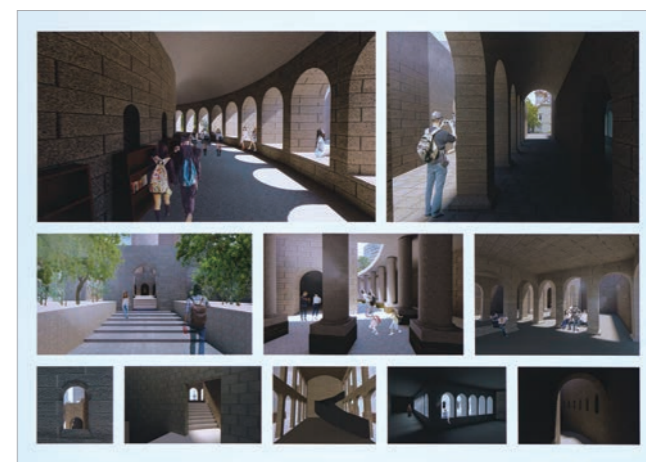
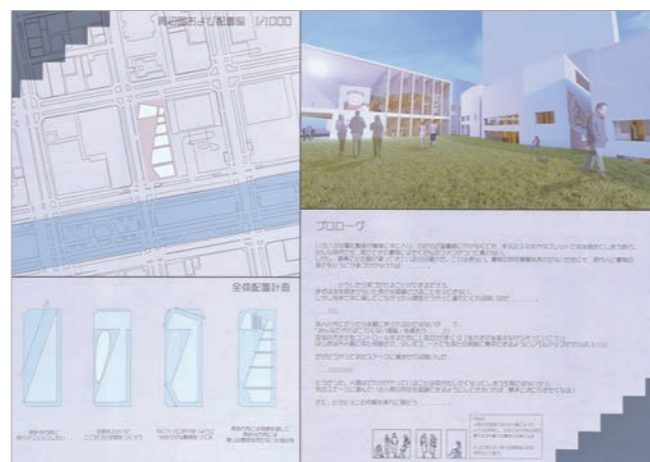
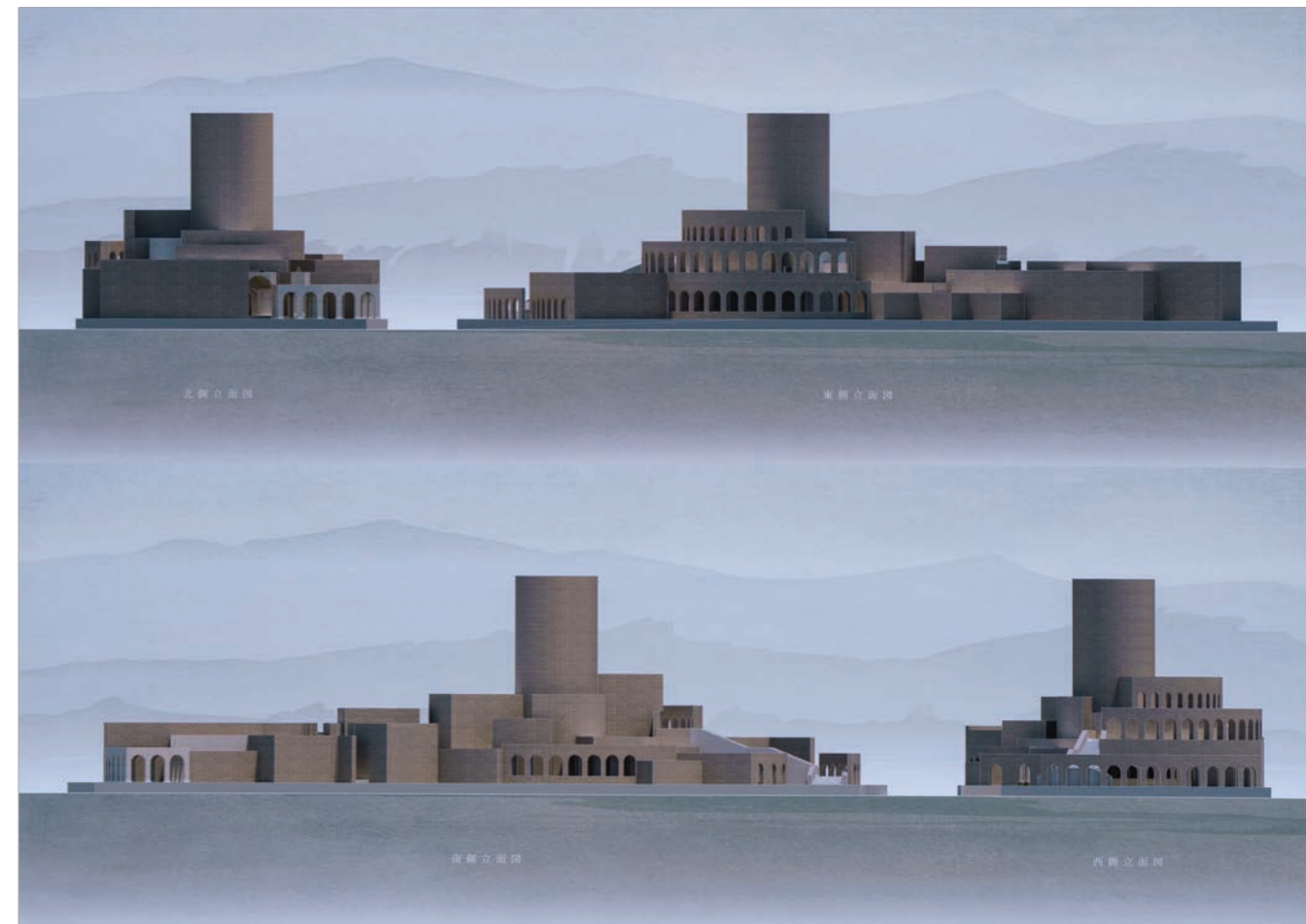
大畝悠介
Yusuke Ose

4319205



塩野谷基悟
Kisato Shionoya

4319212



光と邂逅する建築

建築にとって、光は必要不可欠です。人体にとると血液のようなものです。建築形態に表情を作り出すために、内部空間を生かすために光は極めて重要な存在です。光は、建築に豊かさを生み出し、生活に潤いを与えます。今回の課題は、公園の中に「光と邂逅する建築」を設計します。ここでは、休息の空間、祈りの空間、遊びの空間、出会いの空間など人々の生活に安らぎを与えるための空間を用意します。空気のような存在である光をあらためて見つめなおすことによって、建築空間の存在意義を再確認します。また、光は自然の一現象です。建築は、自然（緑、風、水……）との関わりを考えることが重要です。このような観点から、自然の一部のような、生きた建築を提案して下さい。

湯田 葵
Aoi Yuda 4319136

Sundial

時間とともに変化する太陽の光を感じられる空間、光の入り方は6つあり、異なる光を体験することができる。
また、この空間は季節によっても変化し、冬には一か所のみには光が入る。

1. 敷地について
大通公園はゾーン分けされており、対象敷地はつどい(西6・7・8・9丁目)あそびイベントゾーンと位置づけられている。機能を地下の空間では休憩とする。また、この敷地はイベントで頻りに利用されているので、地上部分は利用に支障がないように空間の大部分を地下とした。

2. 建築について
時間によって変化する光を感じられるよう、放射状に6つの開口を作った。この6つはすべて光の入り方が異なり、内部では違った光を体験することができる。
開口部が地上に飛び出ている部分のぼつたり、寝っ転がったりできる。地下空間の開口部が地上にいる人のアクティビティに繋がる。気づかないうちに地上にいる人たちは地下の中心の円に向かって地上で集まる。
また、6つの開口それぞれ素材を分け、ツヤなどの反射するものや砂壁を使うなど光の見え方が変わる。
冬には雪が積もっても完全に雪に埋まらないようにハイサイドライトを2メートルとし、夏とは違った光が抑えられた空間を体験できる。

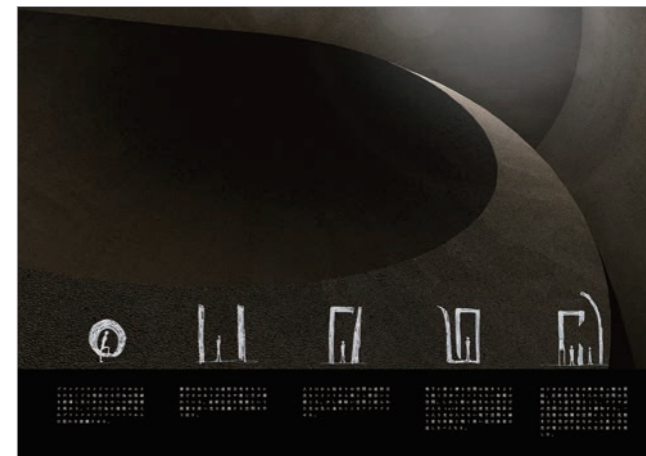
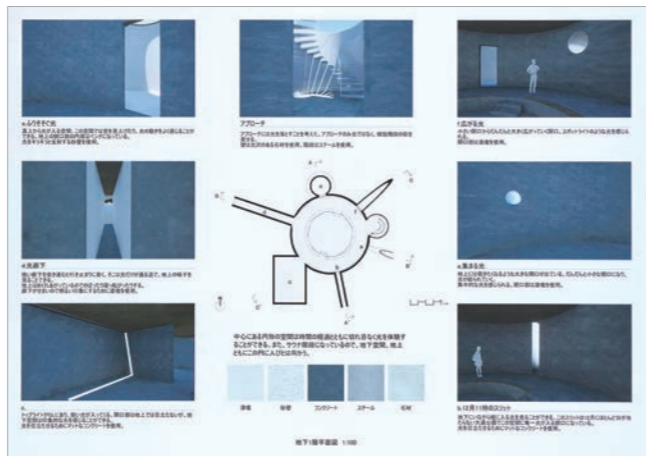
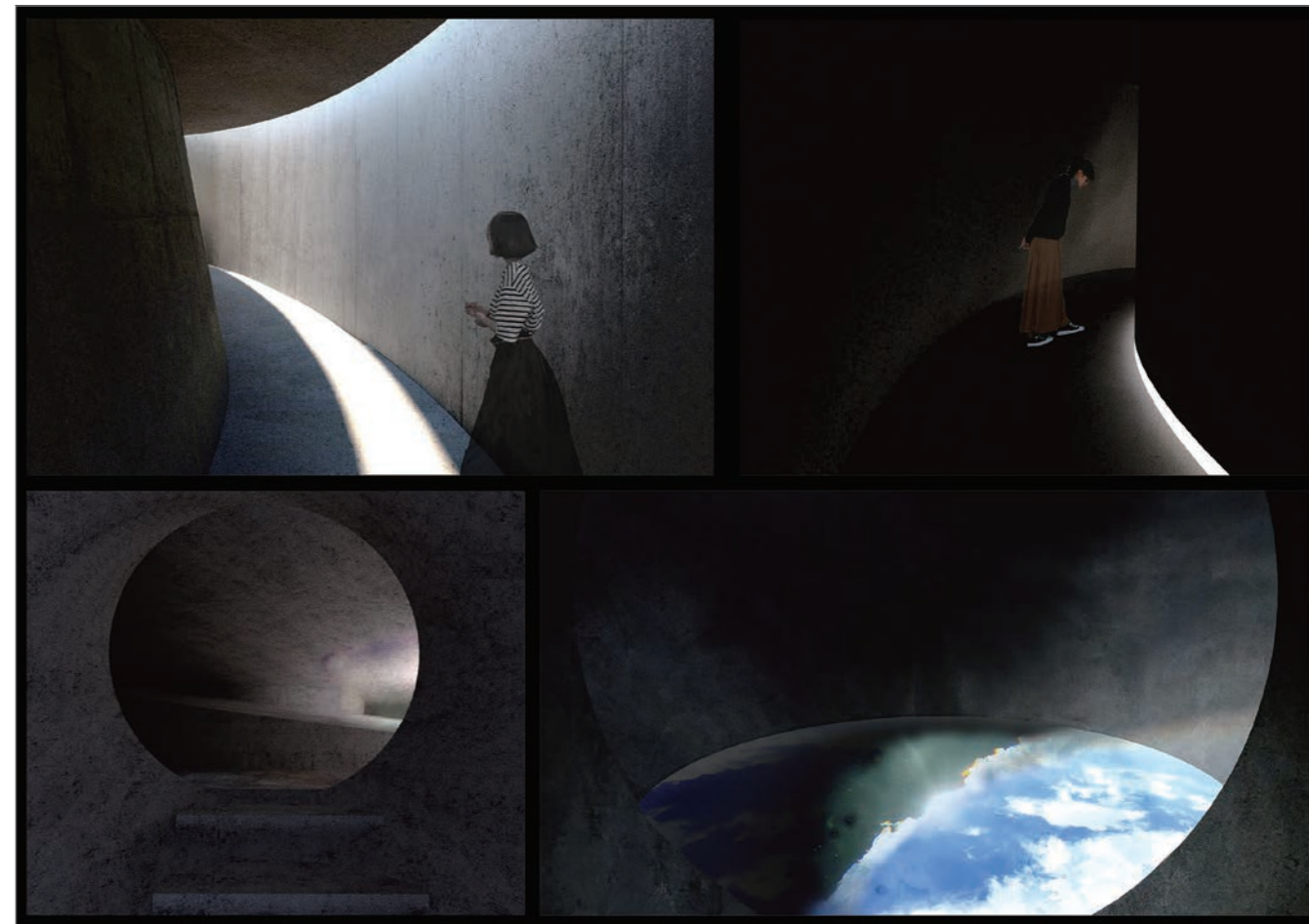
6つの光の入り方
光が均等に入る、壁に当たって反射する、光が広がっていく、絞られていくなど

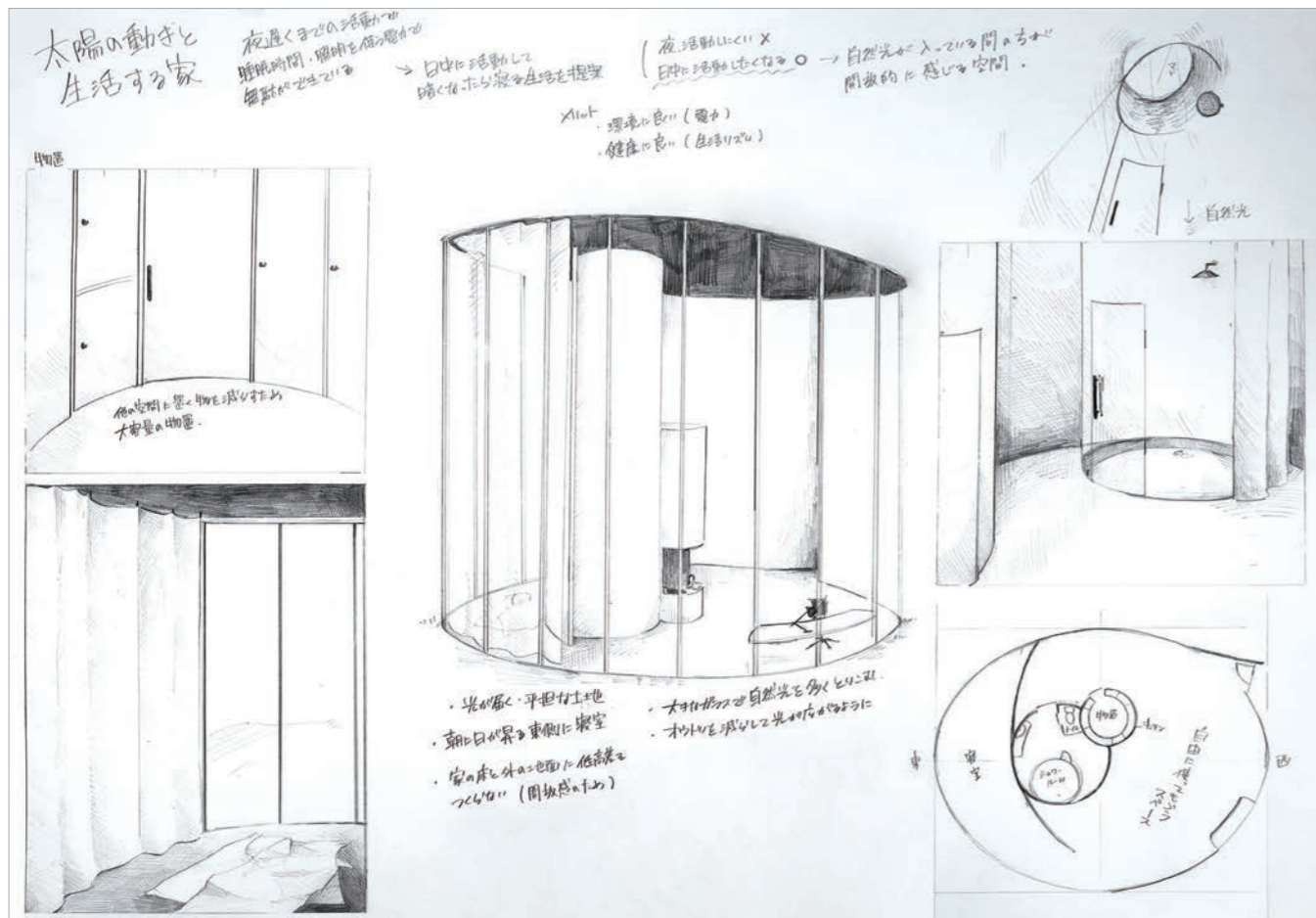
夏季と冬季の光
光が均等に入る、壁に当たって反射する、光が広がっていく、絞られていくなど

花 フロントシア つどい オアシス 交流

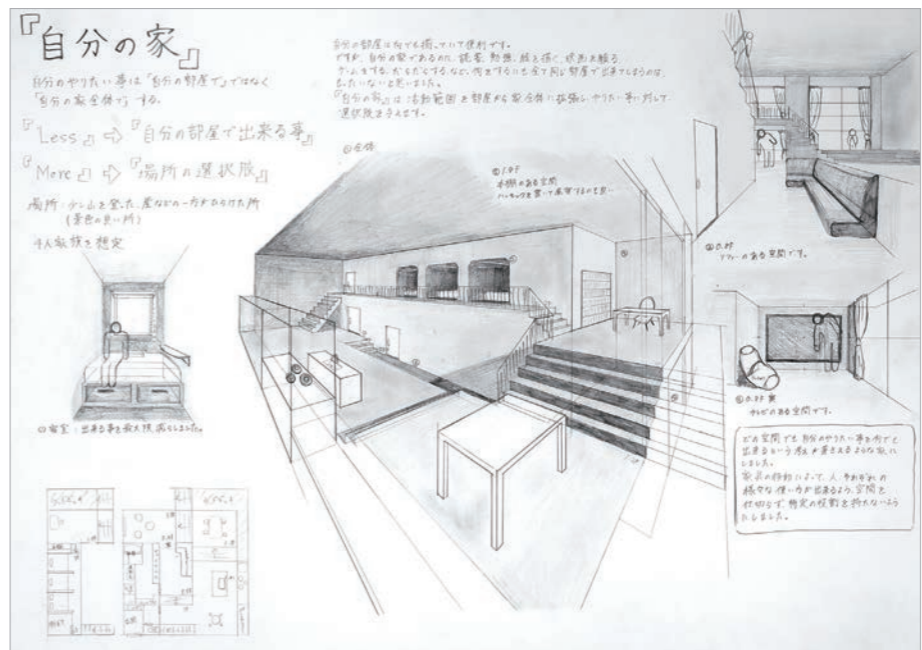
Summer Winter

塩野谷基悟
Kisato Shionoya 4319212

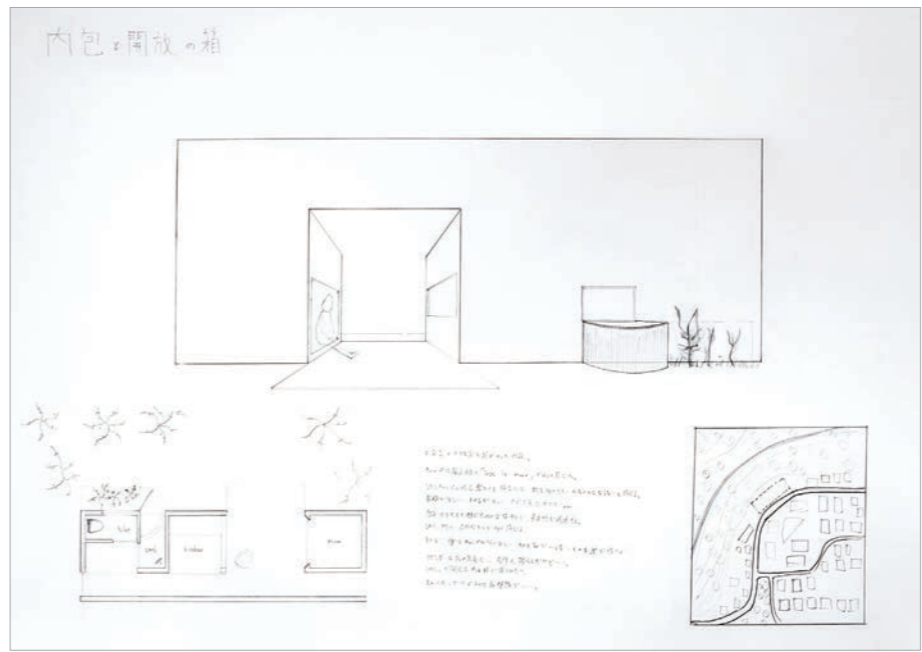




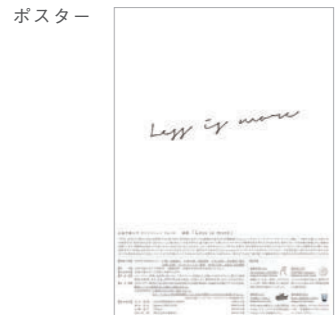
1等賞 1年生 永平楓果
Fuka Nagahira
432229



2等賞
1年生 吉田璃子
Riko Yoshida
4322144



3等賞
4年生 塩野谷基悟
Kisato Shionoya
4319212



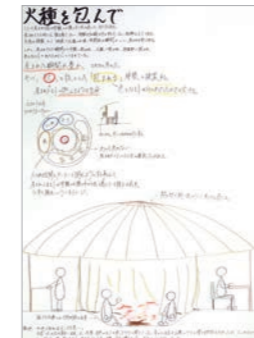
ポスター
第14回 北海学園大学工学部建築学科デザインコンペ
通称「ガクナイコンペ vol.14」
参加資格 北海学園大学・大学院に所属する学生であること。
学部、学科は問いません。申し込みは必要ありません。
審査員 高木 貴問 高木貴問建築設計事務所 98年卒業
神谷 幸治 Qukan / 空間工作所 01年卒業
山崎 貴生 YKAA 14年卒業
河中 宗一朗 株式会社日建設計 16年卒業

応募作品 【テーマ】 Less is more
【敷地】 自由
【場所】 北海学園大学工学部校舎 4階製図室
札幌市中央区南26条西11丁目1-1
【参加資格】 北海学園大学・大学院に所属する学生
【持参物】 シャープペン、鉛筆、色鉛筆、消しゴム、三角スケール、定規など。
会場にてA2サイズ用紙(1人数枚程度)を提供します。昼食、防寒具等は各自用意。(気温により、製図室が寒くなることがあります)
【提出物】 A2サイズ用紙1枚に設計要旨と設計意図を説明する平面図・断面図・立面図や内外観スケッチなどを表現。
模型、パソコン利用作品、印刷での提出は不可。
【必須表現事項】 ①敷地は各々自由に選定すること。
②テーマに沿って何を取捨選択してどんな良さを獲得したかがわかる表現とすること。
(参考文献: ミース・ファン・デル・ローエ (SD選書) 等)

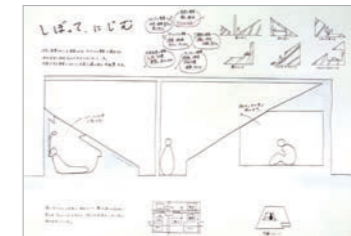
提出期限 2022年10月22日(土)
北海学園大学工学部校舎 4階製図室
賞品 1等賞 1点 Air Armchair (MAGIS) design by Jasper Morrison
2等賞 1点 CARVED (Lemnos) design by Naoki Terada
3等賞 1点 ToolBox (Vitra) design by Arik Levy
審査委員賞 4点 Kartio Highball (ittala) design by Kaj Franck
注意事項 場所探しの際には(私有地への侵入等)人に迷惑をかけないように十分に注意してください。



審査委員賞 1年生
Kanae Oiwa
4522107



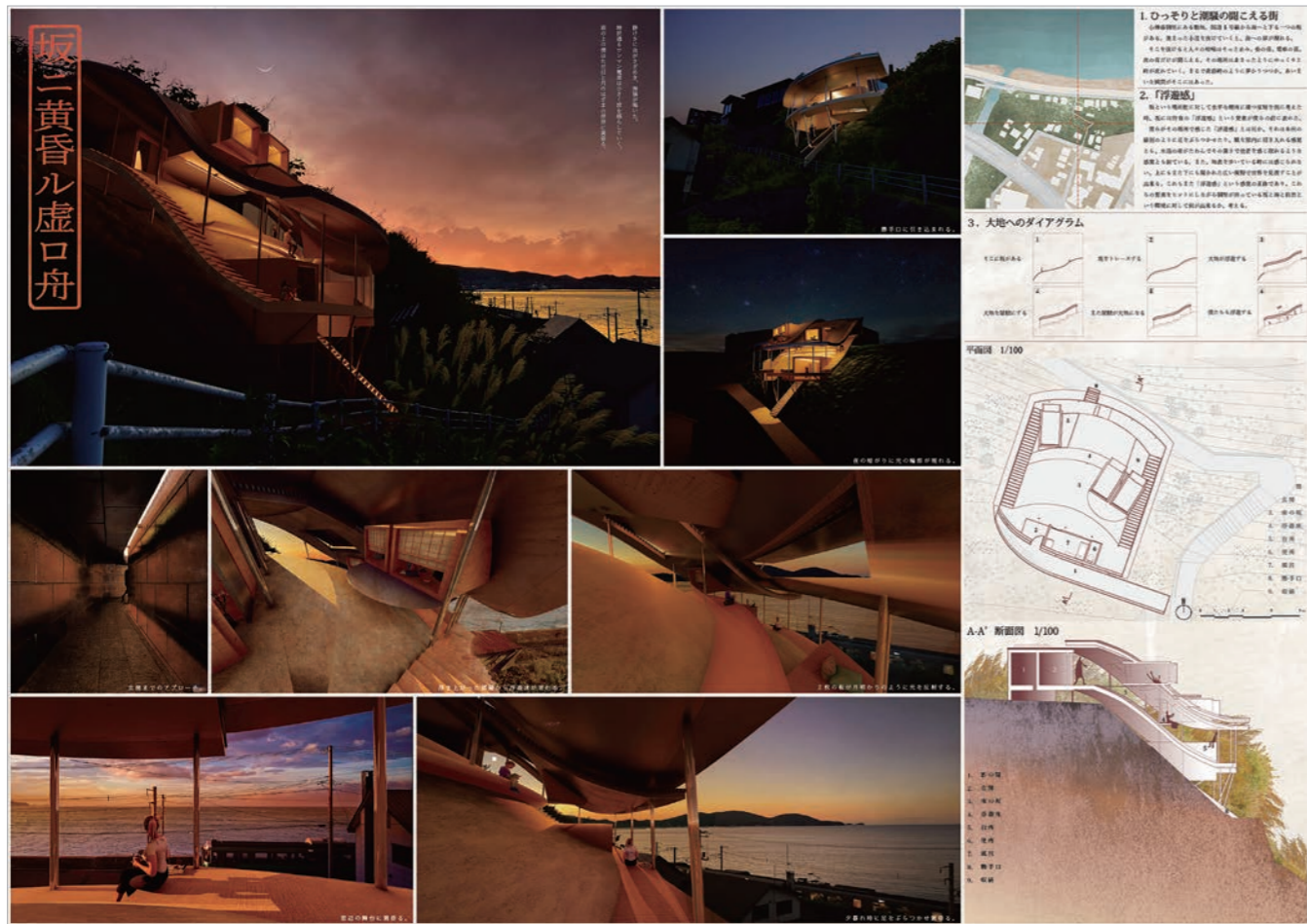
審査委員賞 2年生
Moka Arimura
4321101



審査委員賞 4年生
Yusuke Ose
4319205



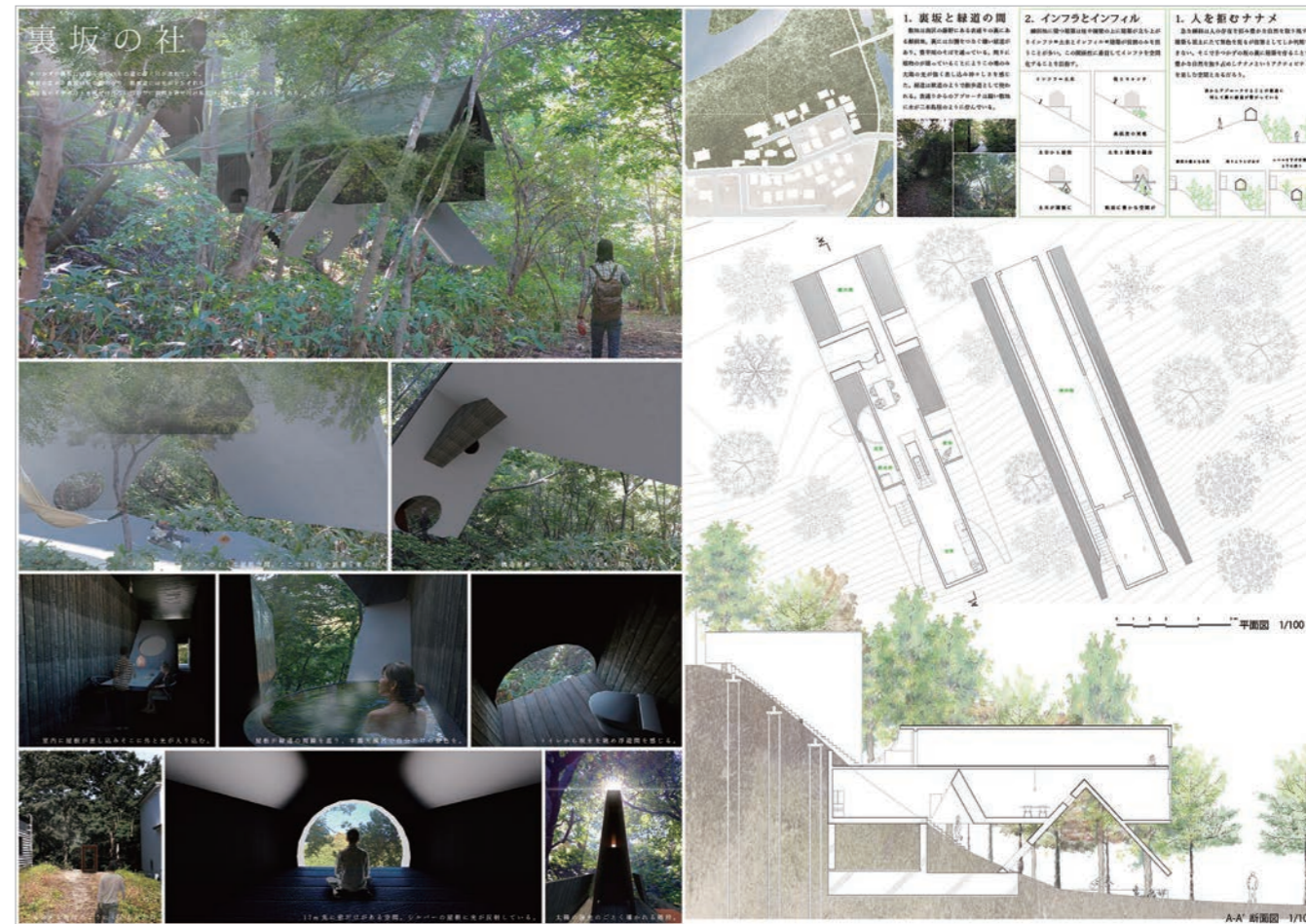
審査委員賞 4年生
Haru Murayama
4319233



第47回「北の住まい住宅設計コンペ」(共同作品)最優秀賞

4年生 武者凌平 Ryohei Musha 4318134

4年生 塩野谷基悟 Kisoato Shionoya 4319212



第47回「北の住まい住宅設計コンペ」優秀賞

4年生 塩野谷基悟 Kisoato Shionoya 4319212

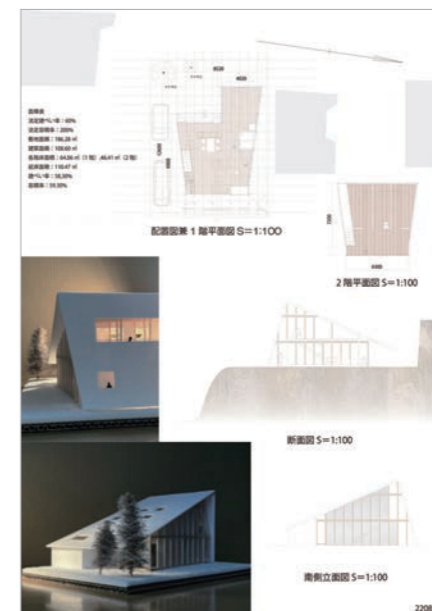
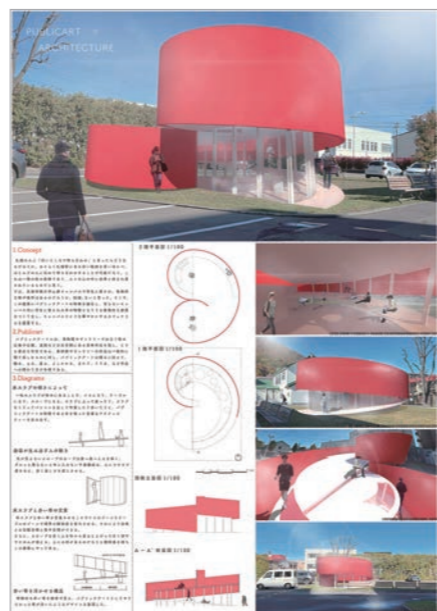


「北海道建築新人戦 2022」優秀賞

3年生 安藤翼 Tsubasa Ando 4320204

「北海道建築新人戦 2022」総合資格賞

2年生 中村龍 Ryu Nakamura 4321222



「木の家設計グランプリ2022」事前審査通過作品

2年生 中村龍 Ryu Nakamura 4321222

地域の財産としての空き家活用

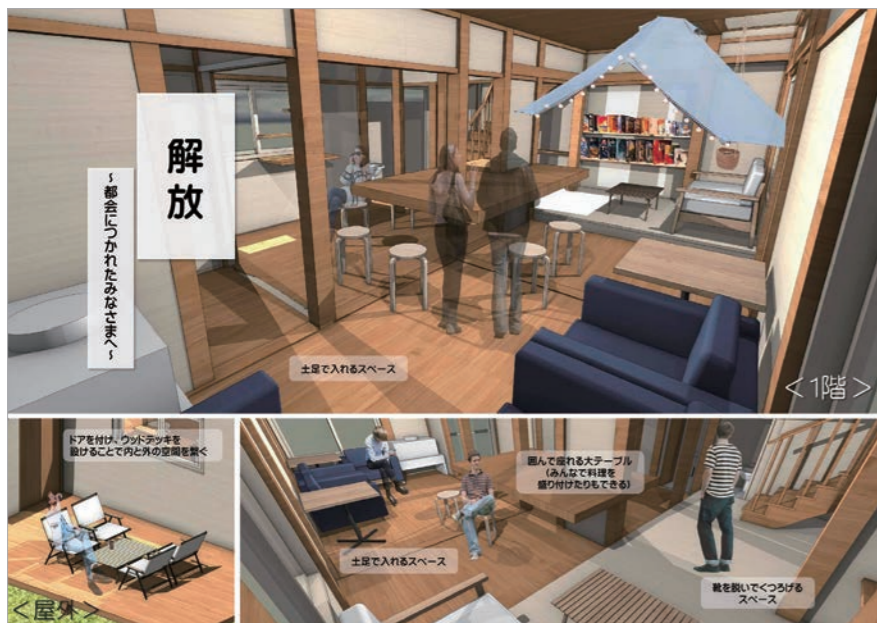
沼田町セルフリノベーション／

移住者・移住希望者・町民らがつながる
交流ハウス

北空知の小さなまち沼田町を舞台に、大きな社会問題のひとつである空き家を、学生らがデザインし、学年を超えて自らの手でリノベーションする取り組みである。伝統ある夜高あんどん祭りに参加するなど、キャンパス内では得られない地方小都市ならではの魅力も体感する。

現場では、地元の工務店や木材店、内装業など多くの技術者からアドバイスを受け、初めて手にする様々な道具に戸惑いつつ、自らのデザインした空間を実現した。

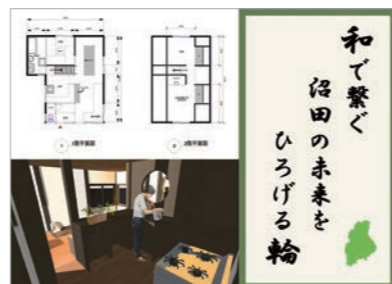
この活動は、講義で得た知識が実体験を経て身につく貴重な機会でもある。空間の創造は、クリエイティビティだけでなく、素材の種類・特性の理解と現場の人・技術があってこそ成り立つ現実を、身を以て実感する。



「解放」(採用案)



「解放」(採用案)



「わ」(次点案)

セルフリノベーション参加学生

今 高志	Takashi Kon	4319112
佐々木彩乃	Ayano Sasaki	4319114
佐藤洸介	Kosuke Sato	4319116
水野雄登	Yuto Mizuno	4319133
小林勇策	Yusaku Kobayashi	4319208
紅谷 優	Yu Beniya	4319226
義川巧己	Takumi Yoshikawa	4319234
上田 伶	Rei Ueda	4319105
古賀水萌	Minamo Koga	4320117
井上洸平	Kohei Inoue	4320205
鎌田玲花	Reika Kamada	4320210
齋藤未波	Minami Saito	4320216
砂子真星	Maho Sunago	4320222
吉泉颯人	Hayato Yoshiizumi	4320245
前田美咲	Misaki Maeda	4320138
菅澤 翠	Midori Sugawara	4321116
堀 佑実	Yumi Hori	4321129
西垣優衣	Yui Nishigaki	4321223



完成記念撮影



2022年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計関連科目担当教員リスト (五十音順)
The list of professor taking charge of the subject about a design '22

4年生2学期 卒業設計	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 植松 武是 Takeyoshi Uematsu 岡本 浩一 Koichi Okamoto 米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授 工学部建築学科教授 工学部建築学科教授 工学部建築学科教授
1年生1学期 造形演習Ⅰ	原井 憲二 Kenji Harai 非常勤講師 梶田みなみ Minami Kajita	工学部建築学科教授 造形作家
1年生2学期 造形演習Ⅱ	原井 憲二 Kenji Harai 非常勤講師 小林 ちほ Chiho Kobayashi	工学部建築学科教授 切絵作家
2年生1学期 空間デザイン演習基礎	岡本 浩一 Koichi Okamoto 非常勤講師 伊藤 千織 Chiori Ito 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授 伊藤千織デザイン事務所 高木貴間建築設計事務所
2年生2学期 空間デザイン演習Ⅰ	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 臼井 巧 Takumi Usui 大坂美保子 Mihoko Osaka 小倉 寛征 Hiroyuki Ogura 佐々木夕介 Yusuke Sasaki 佐野 天彦 Takahiko Sano	工学部建築学科教授 石塚和彦アトリエ office for design アーキラボ・ティアンドエム Sa design office gl/建築設計事務所ジーエル アトリエサノ
3年生1学期 空間デザイン演習Ⅱ	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 大島 亘 Wataru Oshima 海藤裕司 Yuji Kaito 竹林正彦 Masahiko Takebayashi 堀尾 浩 Hiroshi Horio 村國 健 Takeshi Murakuni 吉本考臣 Takaomi Yoshimoto	工学部建築学科教授 アカサカシンイチロウアトリエ アトリエオンドー級建築士事務所 日本設計札幌支社 日本設計札幌支社 堀尾浩建築設計事務所 アトリエブंक 吉本考臣建築設計事務所
3年生1学期 建築デザイン論	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
3年生2学期 空間デザイン演習Ⅲ	米田 浩志 Hiroshi Yoneta 非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 高木 貴間 Yoshichika Takagi	工学部建築学科教授 アカサカシンイチロウアトリエ 高木貴間建築設計事務所
4年生1学期 空間デザイン演習Ⅳ	米田 浩志 Hiroshi Yoneta 非常勤講師 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka 濱口 芳郎 Yoshiro Hamaguchi	工学部建築学科教授 石塚和彦アトリエ 日建設計

※科目の順番は作品掲載順による

2022年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集 第29号
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '22 vol.29

発行日 / 2023年10月1日

発行 / 北海学園大学工学部建築学科
編集責任者 / 米田浩志
〒064-0926
札幌市中央区南26条西11丁目
TEL: 011-841-1161
FAX: 011-551-2951
URL: eng.hgu.jp/arc

編集・デザイン / エイチエス株式会社
〒064-0822
札幌市中央区北2条西20丁目1-12 佐々木ビル
TEL: 011-792-7130
FAX: 011-613-3700